

消 防 年 報

令和元年(平成31年)版



愛 川 町 消 防 本 部

町章



この町章は「アイ川」を図案化し、清流の美と人心の輪を象徴しています。全体の円が町の円満をあらわし、右側にカタカナで「ア」、左側に同じく「イ」、中央部が「川」を意味しています。

(昭和27年6月10日制定)

[ひかり、みどり、ゆとり、協働のまち愛川]



町の鳥 (カワセミ)



町の観光キャラクター (あいちゃん)



町の花 (つつじ)



町の木 (かえで)

愛川町民憲章

わたくしたちは、美しい自然に恵まれ、こころゆたかな“ふるさと愛川”の町民であることを誇りとし、みんなのしあわせとまちの発展に願いをこめて、ここに町民憲章を定めます。

- 1 水とみどりを愛し、住みよい環境をつくりましょう。
- 1 健康で楽しく働き、明るい家庭をきずきましょう。
- 1 たがいに仲よく助けあい、愛の輪をひろげましょう。
- 1 ものと時間を大切にし、きまりや約束をまもりましょう。
- 1 学びあい、教養を深め、文化の高いまちにしましょう。

(昭和56年5月10日制定)

町民みなスポーツの町宣言

わたくしたち愛川町民は、一人ひとりが生涯をとおりスポーツに親しみ、健康でたくましい心とからだをつくるとともに、スポーツを通じて町民の交流を深め、活力ある明るい豊かな愛川町を築くことを誓い、次の目標をかかげて、ここに「町民みなスポーツの町」を宣言します。

- 1 わたくしたちは、生涯をとおりスポーツに親しみ、健康でたくましい心とからだをつくれます。
- 1 わたくしたちは、スポーツを毎日のくらしの中にとりいれ、明るい家庭を築きます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおしてたがいに交流し、友情の輪をひろげます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおして規律ある生活態度を身につけ、活力ある町づくりを進めます。
- 1 わたくしたちは、スポーツをとおして人間愛を育て広く世界の人びとと手をつなぎます。

(平成元年4月8日制定)

応急手当普及推進の町 愛川宣言

わたくしたち愛川町民は、人の命の尊さを胸に、誰もがとっさの
手当のできる力を身に付けることをとおして、安心感あふれる
町づくりを進めるために、次の目標をかかげ、ここに「応急手
当普及推進の町 愛川」を宣言します。

- 1 「私もわが家の救急隊員」を合言葉に、応急手当の普及につとめます。
- 1 応急手当のできる人が、どこの家にも必ずいるような環境づくりをめざします。
- 1 「ひとを救うのは人」 かけがえのない命を守るために、進んで手をさしのべます。
- 1 応急手当の知識、技術を、日常生活での事故防止に役立てます。
- 1 応急手当の普及を進めることにより、温かな連帯と安心の輪を広げます。

(平成13年5月16日制定)

愛川健康のまち宣言

健康は、みんなの願いであり、幸せの源です。

町民みんなが手を携えて、積極的に健康づくりを実践し、共に生きる喜びを分かち合いながら、心豊かな明るい愛川を築くため、ここに「健康のまち」を宣言します。

- 1 「自らの健康は自らが守る」の意識を高め、健康管理に努めます。
- 1 恵まれた自然とふれあいながら、健康運動を楽しみ、元気な心と体をつくります。
- 1 休養を上手にとり、心穏やかな毎日を楽しまます。
- 1 栄養バランスのとれた食生活を続けます。
- 1 家庭、地域で支え合い、健康づくりの輪を広げます。

(平成28年7月3日制定)

は し が き

この年報は、愛川町消防の実態を紹介するため、諸般の事項を統計的に収録したものです。

統計は主として、令和2年4月1日現在で調査したもので、表中年月日の明示したものは、その時点の現況となっています。

また、令和元年5月1日より元号が変わりましたので、各資料については令和元年と表記を統一してあります。

なお、面積・地形・世帯数については企画政策課及び住民課の資料から、気象統計は消防署の観測によるものです。

本書により、本町の消防の実態についてご理解いただくとともに、広くご利用いただければ幸いです。

令和2年6月

愛川町消防本部

目 次

◇愛川町の概要◇

1	愛川町の概要	8
2	面積・人口・世帯数	9
	外国人登録数・国籍別人員	9

◇愛川町消防の概要◇

3	歴代消防団長	1 0
4	歴代消防長	1 0
5	歴代消防署長	1 1
6	常備消防のあゆみ	1 2
7	町民と消防	1 8
8	消防機構図	1 8
9	常備消防の現勢	1 9
10	消防力の状況	2 0
11	消防庁舎の現況	2 1
12	消防車両保有状況	2 1
13	消防水利の状況	2 2

◇総務関係◇

14	消防予算の概要	2 5
15	町予算歳出（目的別）構成図	2 6
16	町予算と常備消防費との比較	2 7
17	消防職員勤務年数	2 7
18	消防職員年齢状況	2 8
19	消防職員居住別	2 8
20	消防職員採用状況	2 9
21	職員研修等の状況	2 9
22	消防職員特殊技能有資格者	3 2

◇予防関係◇

23	火災予防の概要	3 5
24	立入検査実施状況	3 6
25	防火対象物・防火管理状況	3 7
26	防火対象物定期点検報告を必要とする対象物	3 7
27	建築確認申請等消防同意状況	3 8
28	中高層・高層建築物	3 8
29	防災管理定期点検を必要とする対象物	3 8
30	消防用設備等届出状況	3 9
31	予防関係諸届出状況	3 9
32	倍数・類別危険物施設状況	4 0
33	危険物施設事務処理状況	4 1
34	危険物完成検査前検査状況	4 1
35	危険物手数料状況	4 1
36	民間防火団体の活動概要	4 2

◇警防関係◇

火災の状況

37	火災概要比較表	4 5
38	火災詳細一覧	4 6
39	四季別出火件数	4 7
40	時間別火災発生件数	4 8
41	火災の覚知方法別	4 8
42	建物火災用途別状況	4 9
43	原因別出火件数	5 0
44	初期消火状況	5 0
45	過去10年間の出火件数と損害額	5 1
46	地区別火災発生状況	5 2

救助の状況

47	救助出動概要	5 3
48	地区別・種別出動状況	5 4
	地区別割合	5 4
	事故種別割合	5 4

警戒の状況

49	警戒出動概要	5 5
	種別出動件数	5 5
	地区別出動件数	5 5
	活動内容	5 5

風水害の状況

50	風水害出動概要	5 6
	種別出動件数	5 6
	地区別出動件数	5 6
51	自然災害	5 7

◇通信関係◇

52	通信指令業務の概要	6 1
53	システムを構成する主な機器と設備	6 1
54	消防無線系統図	6 2
55	消防無線機一覧表（デジタル無線局）	6 3
56	消防無線機一覧表（署活系無線局）	6 4
57	月別災害受付状況（携帯電話通報を含む）	6 5
58	月別災害通報等覚知件数状況	6 5
59	月別病院問い合わせ	6 5
60	月別気象状況	6 5
61	気象統計	6 6
	気象の観測地点	6 6
	観測期間中の最高・最低記録	6 6
	平均気温推移	6 6
	年間雨量推移	6 6

◇救急関係◇

62	救急出場概要	6 9
63	事故種別出場件数	7 0
64	交通事故の状況	7 0
65	月別出場件数	7 0
66	月別搬送人員	7 0
67	時間別出場件数	7 1
68	傷病程度・事故種別搬送人員	7 1
69	ドクターヘリコプター搬送概要	7 1
70	過去10年間の出場件数の推移	7 1
71	傷病程度別年齢区分別搬送人員	7 2
72	救急隊員の行った応急処置件数	7 2
73	住民の方が行った応急手当件数	7 2
74	熱中症傷病者搬送人員	7 3
75	救急業務の高度化とメディカルコントロール体制	7 4
76	応急手当普及啓発活動	7 4
77	年別救命講習修了者数	7 5
78	町内公共施設自動体外式除細動器（AED）設置状況	7 6
79	小学生BLS授業	7 7
80	普通救命講習Ⅲ	7 8

◇消防団関係◇

81	消防団の概要	8 1
82	消防団のあゆみ	8 2
83	消防団員報酬額	8 6
84	消防団員出動状況	8 6
85	消防団員出動手当	8 6
86	消防団員在職年数	8 6
87	消防団員退職報償金	8 6
88	消防団員の定員・実員・階級別年齢状況	8 7
89	消防団員の勤務先状況	8 7
90	消防団現有車両	8 8
91	消防団器具舎	8 9

1 愛川町の概要

本町は、県中央部に位置する水と緑に恵まれた町です。地勢は、町の西部に仏果山を最高峰とする山並みが連なり、東南部は相模川と中津川にはさまれた肥沃な台地となっています。

昭和30年に旧愛川町と高峰村が合併、翌31年に中津村も合併して現在の姿となりました。美しい自然と中津川の清流にはぐくまれて江戸時代から繊維産業が発達「糸の町」として広くその名を知られています。昭和41年に県内陸工業団地が完成してからは産業都市として躍進をし、今では人口40,119人、18,391世帯（令和2年4月1日現在）を数えるに至っています。また、平成25年には、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の相模原愛川IC、平成27年には、相模原ICの開通により東名高速道路や中央自動車道、関越自動車道までのアクセスが向上しました。

町の面積34.28km²のうち70%を山林に囲まれた、自然・人・産業の調和のとれた町となっています。

<愛川町の位置>

役場所在地 東経 139度19分18秒
北緯 35度31分44秒
標高 127.30メートル



2 面積・人口・世帯数

令和2年4月1日現在

①住民基本台帳登録人口と、外国人登録人口

面 積	人 口			世帯数
34.28 k m ²	男 性	20,947 人	40,119 人	18,391 世帯
	女 性	19,172 人		

②住民基本台帳法に基づく人数

	人 口			世帯数 (世帯)
	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	
半原地区	3,649	3,456	7,105	3,211
田代地区	1,484	1,456	2,940	1,291
角田地区	1,677	1,497	3,174	1,392
三増地区	735	688	1,423	653
春日台地区	1,712	1,615	3,327	1,515
中津地区	11,568	10,354	21,922	10,222
八菅山地区	24	31	55	24
棚沢地区	98	75	173	83
合 計	20,947	19,172	40,119	18,391

③外国人登録法に基づく登録者数及び国籍別登録人員

	人 口			世帯数 (世帯)
	男性 (人)	女性 (人)	計 (人)	
外国籍住民	1,562	1,340	2,902	1,443

No.	国 籍	人 員	No.	国 籍	人 員	No.	国 籍	人 員
1	アルゼンチン	19	18	インドネシア	42	35	シンガポール	1
2	オーストラリア	1	19	イ ラ ン	8	36	南アフリカ共和国	1
3	ボ リ ビ ア	29	20	イ タ リ ア	1	37	ス ペ イ ン	1
4	ブ ラ ジ ル	539	21	朝 鮮	3	38	タ イ	168
5	ミ ャ ン マ ー	6	22	韓 国	31	39	ト ル コ	1
6	カ ン ボ ジ ア	145	23	ラ オ ス	49	40	米 国	3
7	ス リ ラ ン カ	124	24	レ バ ノ ン	1	41	ベ ネ ズ エ ラ	1
8	チ リ	1	25	マ レ ー シ ア	3	42	バングラデシュ	5
9	コ ロ ン ビ ア	13	26	モ ン ゴ ル	2	43	ベ ト ナ ム	281
10	中 国 ・ 台 湾	174	27	モ ロ ッ コ	1	44	エ ス ト ニ ア	1
11	キ ュ ー バ	1	28	ネ パ ー ル	10	45	ロ シ ア	6
12	ドミニカ共和国	78	29	ニ カ ラ グ ア	1	46	キ ル ギ ス	1
13	エルサルバドル	1	30	ナ イ ジェ リ ア	1	47	コンゴ民主共和国	1
14	フ ラ ン ス	2	31	パ キ ス タ ン	35	48	無 国 籍	3
15	ガ ー ナ	3	32	パ ラ グ ア イ	24	49	そ の 他	2
16	ギ ニ ア	2	33	ペ ル ー	701	合 計	2,902	7.23%
17	イ ン ド	10	34	フ ィ リ ピ ン	365			

3 歴代消防団長

昭和31年	9月	初代	河内	保氏	就任
昭和34年	4月	2代	大貫弘二氏	就任	
昭和38年	4月	3代	井上包雄氏	就任	
昭和40年	4月	4代	小島利徳氏	就任	
昭和44年	4月	5代	梅沢要氏	就任	
昭和46年	4月	6代	小野沢芳治氏	就任	
昭和48年	4月	7代	山田佐七氏	就任	
昭和50年	4月	8代	馬場光義氏	就任	
昭和52年	4月	9代	斉藤信男氏	就任	
昭和54年	4月	10代	熊坂忠雄氏	就任	
昭和56年	4月	11代	中村文夫氏	就任	
昭和60年	4月	12代	山口一男氏	就任	
昭和62年	4月	13代	大矢邦明氏	就任	
平成4年	4月	14代	馬場紀光氏	就任	
平成12年	4月	15代	熊坂康治氏	就任	
平成18年	4月	16代	柏木彰氏	就任	
平成24年	4月	17代	小川成仁氏	就任	
平成26年	4月	18代	鈴木慎三氏	就任	
令和2年	4月	19代	小島一彦氏	就任	

4 歴代消防長

昭和50年	5月	初代	相馬晴義氏	就任
昭和53年	1月	2代	馬場安氏	就任
昭和59年	4月	3代	小島訥央氏	就任
昭和62年	4月	4代	伊從昭夫氏	就任
昭和63年	4月	5代	小島助司氏	就任
平成4年	4月	6代	高木繁太郎氏	就任
平成6年	4月	7代	和田武氏	就任
平成13年	4月	8代	和田英男氏	就任
平成16年	4月	9代	平本典夫氏	就任
平成18年	4月	10代	齋藤増雄氏	就任
平成22年	4月	11代	小島治重氏	就任
平成23年	4月	12代	大貫佳孝氏	就任
平成24年	4月	13代	沼田直己氏	就任
平成28年	4月	14代	梅澤幸司氏	就任
平成30年	4月	15代	石川省吾氏	就任
令和2年	4月	16代	岩本誠氏	就任

5 歴代消防署長

昭和51年	4月	初代	小島 助司	氏	就任
昭和53年	1月	2代	馬場消防長が兼任	氏	就任
昭和59年	4月	3代	和田 英男	氏	就任
平成2年	4月	4代	小島消防長が兼任		
平成4年	4月	5代	高木消防長が兼任		
平成6年	4月	6代	齋藤 増雄	氏	就任
平成15年	4月	7代	大野 哲	氏	就任
平成21年	4月	8代	沼田 直己	氏	就任
平成22年	4月	9代	吉川 正美	氏	就任
平成26年	4月	10代	荻田 康也	氏	就任
平成26年	8月	11代	梅澤 幸司	氏	就任
平成28年	4月	12代	奈良 隆敏	氏	就任
平成29年	4月	13代	新倉 哲夫	氏	就任
平成31年	4月	14代	岩本 誠	氏	就任
令和2年	4月	15代	中島 孝祥	氏	就任

6 常備消防のあゆみ

昭和15年	4月	愛川村町制施行「愛川町」となる
昭和30年	1月	愛川町と高峰村が合体合併して「愛川町」となる 人口 10,038人 世帯 1,802世帯
昭和31年	9月	愛川町と中津村が編入合併して、現在の「愛川町」となる 人口 14,321人 世帯 2,554世帯
昭和37年	3月	愛川町火災予防条例制定
昭和39年	2月	愛川町防災会議条例制定 愛川町災害対策本部条例制定
昭和42年	6月	役場管理課内に防災係を置き消防事務を司る
昭和44年	12月	消防指令車（日産VH130）1台購入
	3月	消防用超短波無線電話（基地局1基移動局1基）設置
昭和45年	4月	県衛生部より救急車の寄贈を受け専従救急隊員7名救急車1台をもって救急業務開始
	12月	役場の機構改革により防災消防課を設置、課長に馬場 安 氏就任
昭和47年	1月	神奈川県石油商業組合厚木支部より赤バイ1台（ホンダ125CC）寄贈
	2月	有線放送利用による緊急一斉指令装置設置
昭和48年	6月	消防用超短波無線電話機を基地局1基、移動局6基に切替え
	9月	防災消防課長 伊従 昭夫 氏 就任
昭和49年	4月	町長の諮問機関として消防審議会発足（審議終了まで） 構成人員 町議会議員 4名 行政區長 3名 消防団 3名
昭和50年	3月	愛川町消防本部設置条例制定
	5月	愛川町消防本部設置 初代消防長（事務取扱）助役 相馬 晴義 氏 初代消防本部次長 小島 助司 氏 消防長以下 15名 愛川町の5月1日現在の人口 24,494人 消防本部の位置 愛川町角田251番地1
昭和50年	8月	愛川町消防本部、署庁舎新築工事着工
	10月	県消防学校教官、佐藤賢龍氏の派遣を受け、署の創設業務と職員の教養指導を願った
昭和51年	3月	日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）1台寄贈
		愛川町消防庁舎竣工（鉄筋コンクリート2階建一部3階、延べ768.926㎡）
	4月	消防本部・署義務設置町村の政令指定を受ける 愛川町危険物の規制に関する規則制定 愛川町消防署設置 消防署の位置 愛川町角田251番地1 初代消防署長 小島 助司 氏 同 副署長 和田 英男 氏 ○組織 署長以下 22名 ○設備 消防ポンプ自動車1台、救急自動車 2台 消防指令車1台、赤バイ1台
	6月	愛川町消防救助技術大会開催
	7月	愛川町火災予防条例施行規則制定
	11月	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（日産FH60型）1台寄贈 化学消防ポンプ自動車1台購入
昭和52年	2月	圧縮空気製造施設設置
	4月	消防署半原出張所設置 出張所の位置 愛川町半原105番地 初代半原出張所長 小島 助司 氏 ○組織 署員 10名 ○設備 消防ポンプ自動車 1台
	7月	第1回救急教室を家庭婦人対象に開催
	10月	初代消防長 相馬 晴義 氏 勇退 小島助司次長が消防長職務を代理する 防火管理者資格取得講習会を開催 水槽付消防ポンプ自動車1台購入（いすゞ）、半原出張所に配属
昭和53年	1月	2代消防長 馬場 安 氏 就任（消防署長兼任）
	9月	消防長車（トヨタ MS105）1台購入

昭和55年	8月	日本消防協会から広報車が寄贈（トヨタ）
昭和56年	2月	消防救急指令装置を設置
	3月	救急無線開局
昭和57年	1月	初期消火薬剤無償詰め替えに関する要項を制定
昭和58年	2月	救急車1台購入（トヨタ）
	4月	中津川河川敷に消防訓練場完成（面積 7,030m ² ）
昭和58年	6月	資機材搬送車1台購入（日産）
昭和59年	4月	3代消防長 小島 訢央 氏 就任
		3代消防署長 和田 英男 氏 就任
	7月	消防署半原出張所起工式を実施
	12月	消防署半原出張所開所式を実施
昭和60年	1月	消防署半原出張所落成式を実施
	4月	町防災行政無線試験放送開始
	8月	町防災行政無線放送開始
	12月	救助工作車を購入（三菱）
昭和61年	10月	日本損害保険協会より化学消防ポンプ自動車寄贈
昭和62年	3月	半原出張所の訓練塔完成
	4月	4代消防長 伊従 昭夫 氏 就任
	5月	消防指令車を購入（日産）
	11月	消防ポンプ自動車（CD-1型）を購入
昭和63年	4月	5代消防長 小島 助司 氏 就任
		消防署に通信班を設置
	9月	日本消防協会から救急車が寄贈
平成 元年	11月	消防広報車を購入（トヨタ）
		水槽付消防ポンプ自動車を購入、半原出張所に配属
平成 2年	4月	小島消防長が消防署長を兼任
	10月	小型動力ポンプ付積載車を購入、半原出張所に配属
		消防署発足15周年記念に伴う公開訓練を実施
平成 3年	1月	神奈川県消防長会会長表彰（救急活動）を第一警備隊が受賞
	3月	救急車1台購入（日産）
	7月	第20回関東地区消防救助技術指導会に出場 ロープブリッジ渡過の部
	8月	齋藤増雄副主幹が（財）全国消防協会会長表彰（教育訓練関係功労）を受賞
平成 4年	4月	6代消防長 高木 繁太郎 氏 就任（消防署長兼任）
	7月	第21回関東地区消防救助指導会に2種目出場 ほふく救出の部 ロープ応用登はんの部
	11月	社会福祉施設ミノワホームで消防署・団合同で火災防ぎょ訓練を実施
平成 5年	2月	地震防災アンケート調査を実施
	3月	防災指導員の視察研修を実施
		消防職員の制服等の規則改正（アポロキャップ等）
	11月	普通救命講習会を実施
平成 6年	2月	指揮車（ニッサン E-FEGE24）1台購入
	4月	7代消防長 和田 武 氏 就任
		6代消防署長 齋藤 増雄 氏 就任
		応急手当指導員講習会を実施
	7月	第23回関東地区消防救助技術指導会へ出場 ロープ応用登はんの部 上級救命講習会を実施
平成 7年	1月	阪神・淡路大震災発生！8名の職員を応援救助活動に派遣
	2月	愛川町消防署救急競技会を北里大学病院救命救急センターの医師をコメンテーターに 招き実施
	3月	神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署第2警備隊が受賞
		地震防災アンケート調査を実施
	4月	カルソニック（株）厚木工場、エイボン・プロダクツ（株）より資機材搬送車1台が 寄贈される
	7月	日本消防協会より救急車（2B型）が寄贈
	11月	消防署発足20周年記念公開訓練を実施
		ひとり暮らし高齢者宅の耐震診断を実施
平成 8年	1月	消防本署及び半原出張所増改築完成

平成 8 年	3 月	高規格救急車（ニッサン E-FEGE24）1 台購入 愛川町消防安全管理規定を制定
	4 月	本署高規格救急車の運用を開始 半原出張所を半原分署に名称変更し、救急隊を配備
	7 月	第 2 5 回関東地区消防救助技術指導会へ 3 種目出場（東京） ロープ応用登はんの部（落合 宏明、長谷川 晴之組） ロープブリッジ渡過の部 ほふく救出の部
	8 月	日本消防協会より D-1 ポンプ 2 台寄贈 愛川町で初めて第 2 5 回全国救助技術大会へ出場（札幌市） ロープ応用登はんの部（落合 宏明、長谷川 晴之組） 飲料水兼用耐震性貯水槽（40 t）2 基設置
平成 9 年	1 1 月	愛川町危険物安全協会 20 周年記念事業開催
	3 月	消防署、消防団合同による同時多発火災を想定した火災防御訓練を実施 竹松主幹が消防庁長官表彰（永年勤続）を受賞 愛川町地域防災計画の抜本修正
	7 月	第 2 6 回関東地区消防救助技術指導会へ 2 種目出場（千葉市） はしご登はんの部 ロープブリッジ渡過の部
	8 月	第 2 6 回全国消防救助技術大会へ 2 種目出場（千葉市） はしご登はんの部（中村 啓一） ロープブリッジ渡過の部（森 秀作）
平成 1 0 年	1 1 月	飲料水兼用耐震性貯水槽（40 t）1 基設置（下新久）
	1 2 月	化学消防ポンプ自動車（日野 KC-GD1JG II 型）を更新
	3 月	防災マップ・防災小冊子を作成し、全世帯に配布 消防職員服務規程の改正 春日台区が優良自主防災組織として県知事表彰を受賞
	6 月	宮ヶ瀬湖の誕生式開催
平成 1 1 年	8 月	台風 4 号接近のため町防災訓練が中止
	1 0 月	第 5 3 回国民体育大会秋季大会の警備を実施（25 日～29 日）
	1 1 月	町文化会館に於いて、応急手当発表会を実施
	1 2 月	消防ポンプ自動車（いすゞ KC-NKR71 CD-I 型）を更新
平成 1 2 年	3 月	飲料水兼用耐震性貯水槽（40 t）2 基設置（高峰小・中津小） 愛川町地域防災計画の一部を改訂
	7 月	第 2 8 回関東地区消防救助技術指導会へ出場（横浜市） ロープ応用登はんの部（山口 淳、落合 宏明 組）
	1 1 月	ドクターヘリ要請活動開始
	1 2 月	救助工作車（三菱 KK-FK61H II 型）を更新
平成 1 3 年	5 月	『私もわが家の救急隊員の町 愛川』推進大会を実施
	7 月	第 2 9 回関東地区消防救助技術指導会へ 2 種目出場 はしご登はんの部（森田 貴久） ロープブリッジ渡過の部（齋藤 秀和）
	8 月	第 2 9 回全国消防救助技術大会へ出場（熊本市） はしご登はんの部（森田 貴久）
	1 1 月	神奈川県・愛川町合同林野火災総合訓練を実施
平成 1 4 年	1 2 月	半原分署へ高規格救急車（トヨタ GEVCH38S）を配備
	3 月	半原分署第 1 救急分隊が（財）県消防長会会長表彰（功勞部隊）を受賞
	4 月	8 代消防長 和田 英男 氏 就任
	5 月	「応急手当普及推進の町 愛川」宣言大会
平成 1 5 年	7 月	第 3 0 回関東地区消防救助技術指導会へ出場 ロープブリッジ渡過の部（齋藤 秀和） 半原分署消防ポンプ自動車（三菱 KK-FG53EC・CD-I 型）を購入
	1 月	「第 6 回防災まちづくり大賞」（昭和 5 2 年創設）に於いて、「応急手当普及推進の町」を 全国ではじめて宣言し活動などが認められ、「消防科学総合センター理事長表彰」を受賞
	3 月	本署第一警備隊 救急分隊が県消防長会表彰（消防功勞部隊）を受賞 地域防災計画一部改訂
	1 0 月	消防指令車（トヨタ TA-GXS12）を購入
平成 1 5 年	3 月	消防長 和田 英男 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功勞章）を受賞
	4 月	7 代消防署長 大野 哲 氏 就任

平成15年	7月	第32回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場 はしご登はんの部（広川 哲） ほふく救出の部（伊従 丈二、小川 幸彦、檜村 尚歩 組）
	8月	第32回全国消防救助技術大会へ出場（仙台市） ほふく救出の部（伊従 丈二、小川 幸彦、檜村 尚歩 組）
	9月	新消防庁舎建設工事着工（2ヶ年事業で実施）
12月		本署高規格救急車（トヨタ TCVCH38S）を更新
平成16年	3月	齋藤次長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
	4月	9代消防長 平本 典夫 氏 就任
	7月	第33回関東地区消防救助技術指導会へ2種目出場 ロープ応用登はんの部（沼田 将明、岡本 貞治 組） ほふく救出の部（伊従 丈二、小川 幸彦、湯澤 勇人 組）
	8月	第33回全国消防救助技術大会へ2種目出場（三木市） ロープ応用登はんの部（沼田 将明、岡本 貞治 組） ほふく救出の部（伊従 丈二、小川 幸彦、湯澤 勇人 組）
11月		資材搬送車（日産 TC-SH4F23）を更新
平成17年	3月	消防庁舎移転 消防庁舎の位置 愛川町角田286番地の1 「高機能消防通信指令システム」を導入 足立原副署長が消防庁長官表彰（永年勤続章）を受賞 地域防災計画一部改訂
	7月	新町発足50周年の年に「消防・防災フェスティバル」を開催。 家族連れなど、約1,000名の住民が来場 町内5箇所の公共施設に自動体外式除細動器（AED）を配備を開始する。 配備場所 第1号公園体育館 三増公園陸上競技場 田代運動公園 中津レディースプラザ ラビンプラザ
	9月	広報車（日産：DBA-E11）を更新
平成18年	3月	「第10回防災町づくり大賞」表彰式において、春日台シルバー消防隊が消防科学センター 理事長賞を受賞 小野司令長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
	4月	10代消防長 齋藤 増雄 氏 就任
10月		国のモデル事業として、災害対策本部運営訓練を実施する
平成19年	3月	大野司令が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
平成20年	3月	吉川司令及び沼田司令が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
	8月	第37回全国消防救助技術大会へ出場（北九州市） ロープ応用登はんの部（沼田 将明、岡本 貞治組）
	11月	自動心臓マッサージ器を搭載した半原分署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新 緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（横浜市）に参加
平成21年	3月	齋藤消防長が消防庁長官表彰（功労章）を受賞 齋藤消防長が神奈川県消防長会会長表彰（消防特別功労章）を受賞 半原分署救急隊2隊が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労部隊）を受賞
	4月	8代消防署長 沼田 直己 氏 就任
	8月	齋藤消防長が全国消防長会表彰（消防特別功労表彰）を受賞
	8月	消防庁舎排水設備（下水道接続）工事完了
平成22年	3月	齋藤消防長が全国消防長会表彰（永年勤続章）を受賞 成瀬司令が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞 本署警備第1課第1救急隊が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労部隊）を受賞
	4月	11代消防長 小島 治重 氏 就任 9代消防署長 吉川 正美 氏 就任
11月		本署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新
平成23年	3月	荻田司令が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞 本署警備第1課第1救急隊・消防隊が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労部隊）を受賞 東日本大震災の発生に伴う、緊急消防援助隊を派遣（宮城県仙台市宮城野地区）
	4月	12代消防長 大貫 佳孝 氏 就任
11月		奈良司令が全国優良消防職員表彰を受賞
平成24年	3月	梅澤司令補が関東地区支部優良消防職員表彰を受賞 本署警備第1課第1救急隊・消防隊が神奈川県消防長会会長表彰（救急功労部隊）を受賞
平成24年	4月	13代消防長 沼田 直己 氏 就任

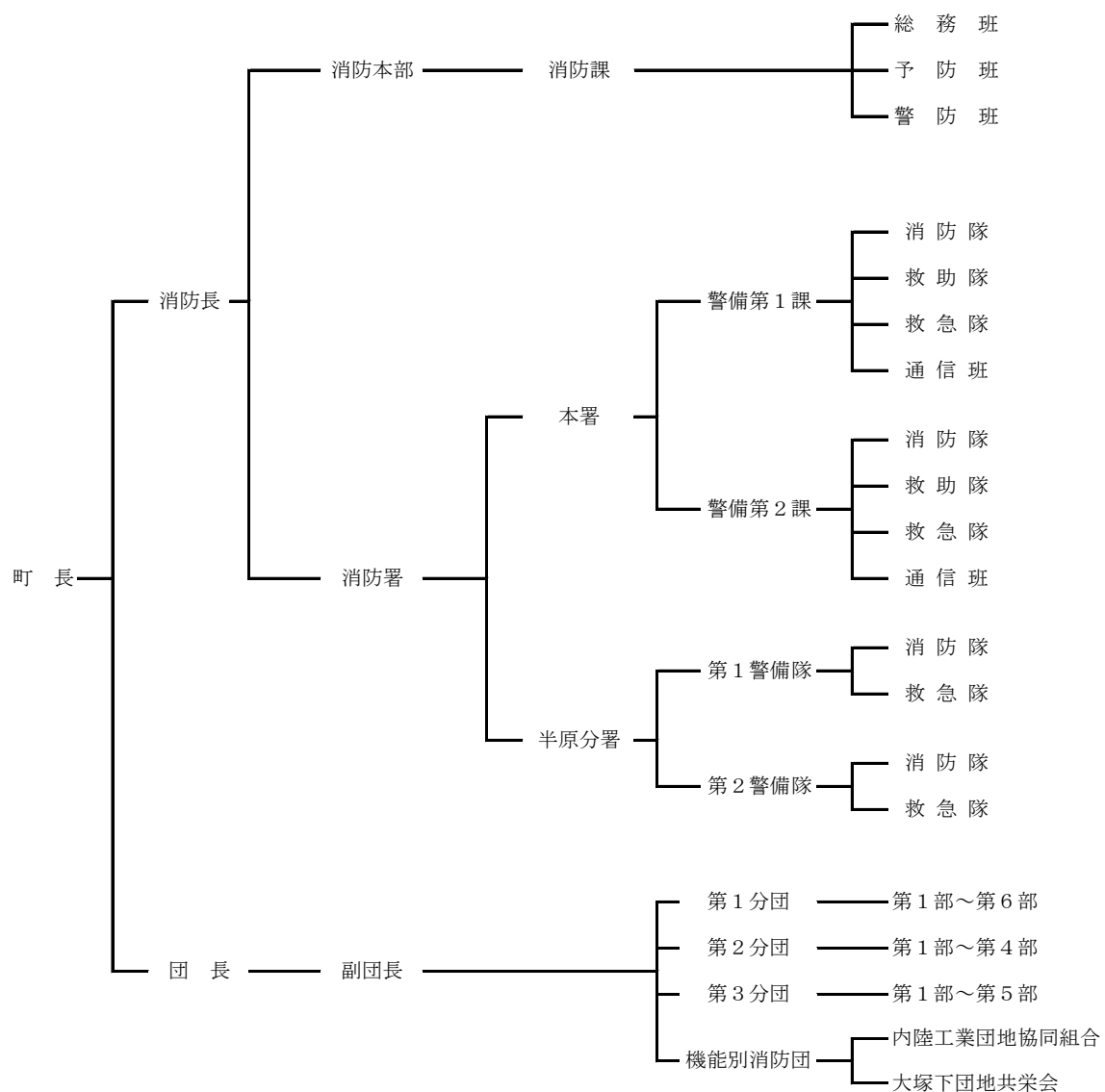
平成24年	4月	町内公共施設の自動体外式除細動器（AED）を新機種に一新・貸出用1台を配備
	11月	元消防長（8代）和田 英男 氏が第19回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章 平成24年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（埼玉県）に参加（高規格救急車・搬送車）
平成25年	1月	愛川町防災講演会を町文化会館で開催。（406名参加） 講師：市民防災ラボ代表 玉木 貴 氏 演題：助かる命を守る共助、地域防災ははじめの一步
	6月	第38回神奈川県消防救助技術指導会において「ロープ応用登はん」の部で第1位 出場選手（沼田 将明、原田 良亮組）
	8月	第42回全国消防救助技術大会に「ロープ応用登はん」の部へ出場 出場選手（沼田 将明、原田 良亮組）
	2月	親子防災教室（宿泊）を社会福祉協議会と共催で実施
平成26年	3月	愛川町消防本部・愛川町消防団が消防庁長官表彰（竿頭綬）を受章 消防署警備第2課長 石井利明氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章 愛川町職員定数条例の一部を改正（初任教育中の職員除外） 愛川町消防長及び消防署長の資格を定める条例の制定
	4月	10代消防署長 荻田 康也 氏 就任
	8月	11代消防署長 梅澤 幸司 氏 就任
	11月	元司令長 竹松 正男 氏が第23回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
	3月	消防署副署長兼警備第1課長 奈良隆敏氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第1課が受賞
	4月	機構改革により課名を「消防課」に変更 町部局に危機管理室が新設されたことに伴い「防災対策班」が廃止 「予防警備班」が「予防班」と「警備班」に分割 愛川町火災予防条例施行規則の一部を改正 機構改革に伴い、愛川町消防事務決裁規程、愛川町消防安全管理規程、愛川町消防表彰規程の一部を改正 愛川町消防吏員の服制等に関する規則の一部を改正（救助服の追加） 愛川町消防本部警防規程の制定
	5月	元司令長 小野 賢二 氏が第24回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
	3月	沼田消防長が全国消防長会表彰（消防特別功労表彰）を受賞 消防署長 梅澤 幸司 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第2課が受賞
	4月	消防救急デジタル無線（活動波）運用開始 愛川町消防署の組織に関する規程の一部を改正（分隊長に充てる職員に消防士長を追加）
	11月	14代消防長 梅澤 幸司 氏 就任 12代消防署長 奈良 隆敏 氏 就任 愛川町消防本部警防規程の改正（警防対策本部の設置） 愛川町火災予防条例施行規則の一部を改正（行政不服審査法の改正に伴うもの）
平成27年	12月	元司令長 大野 哲 氏が第27回危険業務従事者叙勲（端宝単光章）を受章
	3月	分署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新 消防署副署長兼本署警備第2課長 近藤 良 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章 神奈川県消防長会会長表彰（功労部隊）を本署警備第1課、半原分署第1警備隊が受賞
	4月	愛川町消防署の組織に関する規程の一部を改正（分隊を廃止及び分隊長を副隊長に変更） 13代消防署長 新倉 哲夫 氏 就任 愛川町消防吏員の服制等に関する規則の一部を改正（女性消防吏員の対応等） 愛川町消防本部の組織等に関する規則の一部を改正（次長の廃止等） 愛川町事務決裁規程、愛川町消防本部警防規程及び愛川町予防違反処理規程の一部改正（次長の廃止等） 愛川町消防通信運用管理規程の一部改正 高機能消防通信指令システムを更新し統合型位置情報通知装置を導入 愛川高校ファイヤーガードクラブの発足
	5月	梅澤消防長が全国消防長会表彰（消防特別功労表彰）を受賞
平成28年	8月	消防司令 石川 省吾 氏が全国優良消防職員表彰を受賞
	10月	平成29年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練（群馬県）に参加（ポンプ車・搬送車）
	11月	元司令長 齋藤 増雄 氏が第29回危険業務従事者叙勲（端宝双光章）を受章 本署高規格救急車（トヨタCBF-TRH226S）を更新
	3月	消防署長 新倉 哲夫 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受章 消防司令補 茅 英樹 氏が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労者表彰）を受賞 田代婦人消防クラブが日本消防協会会長表彰（優良婦人消防隊）を受賞
平成29年	4月	15代消防長 石川 省吾 氏 就任 愛川町消防本部の組織等に関する規則、愛川町消防本部消防職員委員会に関する規則、 愛川町消防事務決裁規程、愛川町消防表彰規程及び愛川町消防安全管理規程の一部改正 （庶務班を総務班、警備班を警防班に改める）

平成30年11月	半原分署消防ポンプ自動車（日野TKG-XZU685M・CD-I型）を更新 平成30年度緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練開催（神奈川県）
平成31年 3月	本署警備第1課長 島崎 光男 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章 半原分署長 菊地原 邦夫 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章
4月	14代消防署長 岩本 誠 氏 就任 愛川町消防本部消防職員委員会に関する規則の一部を改正
令和 元年 5月	緊急時の多言語通訳サービスの運用開始（17言語対応）
9月	通信指令室に聴覚障がい者用通報システム「Net119緊急通報システム」を導入
令和 2年 3月	本署警備第2課第救急隊が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労団体）を受賞 消防士長 樫村 尚歩 氏が神奈川県消防長会会長表彰（消防功労者表彰）を受賞 消防長 石川 省吾 氏が消防庁長官表彰（永年勤続功労）を受章
4月	16代消防長 岩本 誠 氏 就任 15代消防署長 中島 孝祥 氏 就任 消防司令 岩澤 浩和 氏が全国消防協会関東地区支部表彰（優良消防職員表彰）を受賞 愛川町消防事務決裁規程の一部改正

7 町民と消防

消防職員	67		人	消防ポンプ自動車	消防署	3	台	
消防団員	193		人	小型動力ポンプ付積載車	消防団	15	台	
消防職員 1 人対し	人口	607	人	消防ポンプ自動車 1 台に対し	消防署	人口	13, 373	人
	世帯	278	世帯			世帯	6, 130	世帯
	面積	0. 52	km ²			面積	11. 43	km ²
消防団員 1 人に対し	人口	207	人	小型動力ポンプ付 積載車 1 台に対し	消防団	人口	2, 675	人
	世帯	95	世帯			世帯	1, 226	世帯
	面積	0. 18	km ²			面積	2. 28	km ²

8 消防機構図



9 常備消防の現勢

面 積		34.28	km ²
人 口		40,119	人
世 帯 数		18,391	世帯
消防本部設置		昭和50年5月1日	
消防署設置		昭和51年4月1日	
分 署 設 置		昭和52年4月1日	
(平成8年4月1日に出張所から分署に昇格)			
消 防 職 員		67	名

消防車両

消防指令車		1	台
消防指揮車		1	台
広 報 車		1	台
化学消防ポンプ自動車		1	台
消防ポンプ自動車		2	台
救助工作車		1	台
高規格救急車		3	台
資機材搬送車		1	台
小型動力ポンプ付積載車		1	台

10 消防力の状況

各市町村における消防力は消防庁告示「消防力の整備指針」により、各市町村の人口・面積・地域性を考慮した消防力（消防の人員、施設、車両）の整備目標が定められています。

署所の状況

区分 基準数・現有数等	消防本部	消防署	分署
基準数	1	2	
現有数	1	1	1
不足数	0	0	0
充足率	100%	100%	100%

消防車両の状況

区分 基準数・現有数等	消防ポンプ自動車	化学消防ポンプ自動車	救助工作車	はしご車	救急車
基準数	3	1	1	1	2
現有数	2	1	1	0	3
不足数	1	0	0	1	0
充足率	66%	100%	100%	0%	100%

※ 消防ポンプ自動車不足数1台については、化学消防ポンプ自動車をもって出動しています。

消防水利の基準

○消防水利は消防法第20条第1項の規定により、消防庁からの告示でその能力等の基準が定められています。この基準は、地図上で町内の市街化区域、準市街化区域等を一定の間隔でメッシュ状に区画分けした総数を基準数とし、区画単位で一定の能力を満たした消防水利が含まれる場合を充足数としています。

基準数（区画）	充足数（区画）	不足数（区画）	充足率
403	381	22	94.5%

1 1 消防庁舎の現況

区 分	所 在 地	構 造	敷地面積	建築面積	延 面 積	竣工年月日
本部・本署	愛川町角田 2 8 6 番地の 1	鉄筋コンクリート造 3 階	3, 032. 90㎡	1, 009. 66㎡ (訓練塔) 49. 18㎡	2, 509. 82㎡ (訓練塔) 180. 00㎡	H17. 3. 13
半原分署	愛川町半原 1 6 2 0 番地	鉄筋コンクリート造 2 階	1228. 48㎡	227. 51㎡ (消毒室兼倉庫) 32. 00㎡	457. 87㎡ (消毒室兼倉庫) 32. 00㎡	S60. 1. 25 H8. 1. 25

1 2 消防車両保有状況

区 分	車 両 別	型 式	購入 年月	車両番号	排気量 (CC)	燃料の 種 類	ポ ン プ		備考
							社 名	級 別	
本 部	消 防 指 令 車	トヨタ TA-GXS12	H14. 10	相模800 さ7217	1, 980	ガソリン			
	広 報 車	ニッサン DBA-E11	H17. 9	相模800 す1468	1, 490	ガソリン			
	消 防 指 揮 車	ニッサン E-FEGE24改	H6. 2	相模88 た 358	2, 960	ガソリン			
本 署	化 学 消 防 ポンプ自動車	日 野 LDG-FE7JGAA	H25. 12	相模830 つ 119	6, 400	軽 油	ナカムラ 消防化学	A-2	電動ホースカー 積載
	消 防 ポ ン プ 自 動 車	いすゞ KC-NKR71GN	H10. 12	相模88 た9271	4, 570	軽 油	日 本 機 械	A-2	電動ホースカー 積載
	救 助 工 作 車	三菱 KK-FK61HGX	H11. 12	相模880 は 22	8, 200	軽 油			
	高規格救急車	トヨタ CBF-TRH226S	H29. 11	相模830 に 99	2, 690	ガソリン			自動心臓 マッサージ器 積載
	高規格救急車 (予備救急車)	トヨタ CBF-TRH226S	H22. 11	相模830 ち 99	2, 690	ガソリン			自動心臓 マッサージ器 積載
	資 機 材 搬 送 車	ニッサン TC-SH4F23	H16. 11	相模800 す 458	1, 990	ガソリン			
分 署	消 防 ポ ン プ 自 動 車	日野 TKG-XZU685M	H30. 11	相模800 せ2698	4, 009	軽 油	長野 ポンプ	A-2	積載水 搭載
	高規格救急車	トヨタ CBF-TRH226S	H28. 11	相模830 な 99	2, 690	ガソリン			自動心臓 マッサージ器 積載
	小型動力ポンプ 付 積 載 車	ニッサン KC-SP8F23改	H9. 3	相模88 た5886	2, 660	軽 油	トーハツ	B-3	

1 3 消防水利の状況

消防水利の種類は大きく分けて、上水道の給水管から水を出ることができる消火栓と、地中に水をためておく防火水槽の2種類に分けることができます。

消防水利が常時使用可能な状態を保つため、年間を通して水利調査を行い維持管理に努めています。

消防水利一覧

令和2年4月1日現在

区分 管内別		消火栓	防火水槽	その他の水利	
				耐震性鋼板プール ()は採水口付	飲料水兼用耐震性 貯水槽
分署管内	第1分団第1部	17	15		
	第1分団第2部	26	13		1
	第1分団第3部	22	8	1 (1)	
	第1分団第4部	22	26		
	第1分団第5部	49	30		1
	第1分団第6部	49	22	2 (2)	
	小 計	185	114	3 (3)	2
本署管内	第2分団第1部	50	40	3 (3)	1
	第2分団第2部	31	55		
	第2分団第3部	23	21	1 (1)	
	第2分団第4部	27	19		
	小 計	131	135	4 (4)	1
	第3分団第1部	73	33	3 (2)	1
	第3分団第2部	64	56	1	1
	第3分団第3部	51	33		
	第3分団第4部	23	33		
	第3分団第5部	87	115	1	
	小 計	298	270	5 (2)	2
	合 計	614	519	12 (9)	5
総合計		1150 (9)			

総務関係



雨天時用 出初式看板（屋内用）

1 4 消防予算の概要

令和2年度の本町総予算額は、240億5,695万1千円（対前年度比3.4%増）となり、このうち一般会計予算額は、124億7,000万円（対前年度比0.48%増）となっています。

消防予算額は、6億7,914万9千円（対前年度比1.27%減）で、一般会計に占める割合は、5.44%となっています。

令和2年度の主要事業

1. 消 防 (1) 火災による「延焼させない」を目標とした消防訓練と予防広報の充実
(2) 消防・救助資機材の更新及びに消防水利の整備
(3) 火災原因調査認定職員の育成
2. 救 急 (1) 応急手当普及事業の推進
(2) メディカルコントロール体制の推進
(3) 救急救命士の養成、再教育研修の実施
(4) 救急車の適正利用についての周知
(5) 貸出用AEDの周知
3. 予 防 (1) ひとり暮らし高齢者世帯をはじめデイサービス施設、グループホーム、特別養護老人施設等の増加に伴う災害時避難困難者対策
 - ・ 防火指導、広報による防火思想の普及推進
 - ・ 立入検査による実態把握(2) 立入検査の充実
 - ・ 防火対象物実施目標：30%
 - ・ 危険物施設・車両実施目標：100%
 - ・ 立入検査員の育成(3) 住宅用火災警報器の設置・普及推進
 - ・ 設置目標：90%(4) 大型物流倉庫増加に伴う火災予防査察
 - ・ 立入検査等による実態把握
 - ・ 消防署部隊の現地確認
4. 消防団 (1) 消防団員確保対策の推進
 - ・ 基本団員の確保
 - ・ 女性消防団員の加入促進
 - ・ 機能別消防団の充実(2) 消防団員の福利厚生の充実

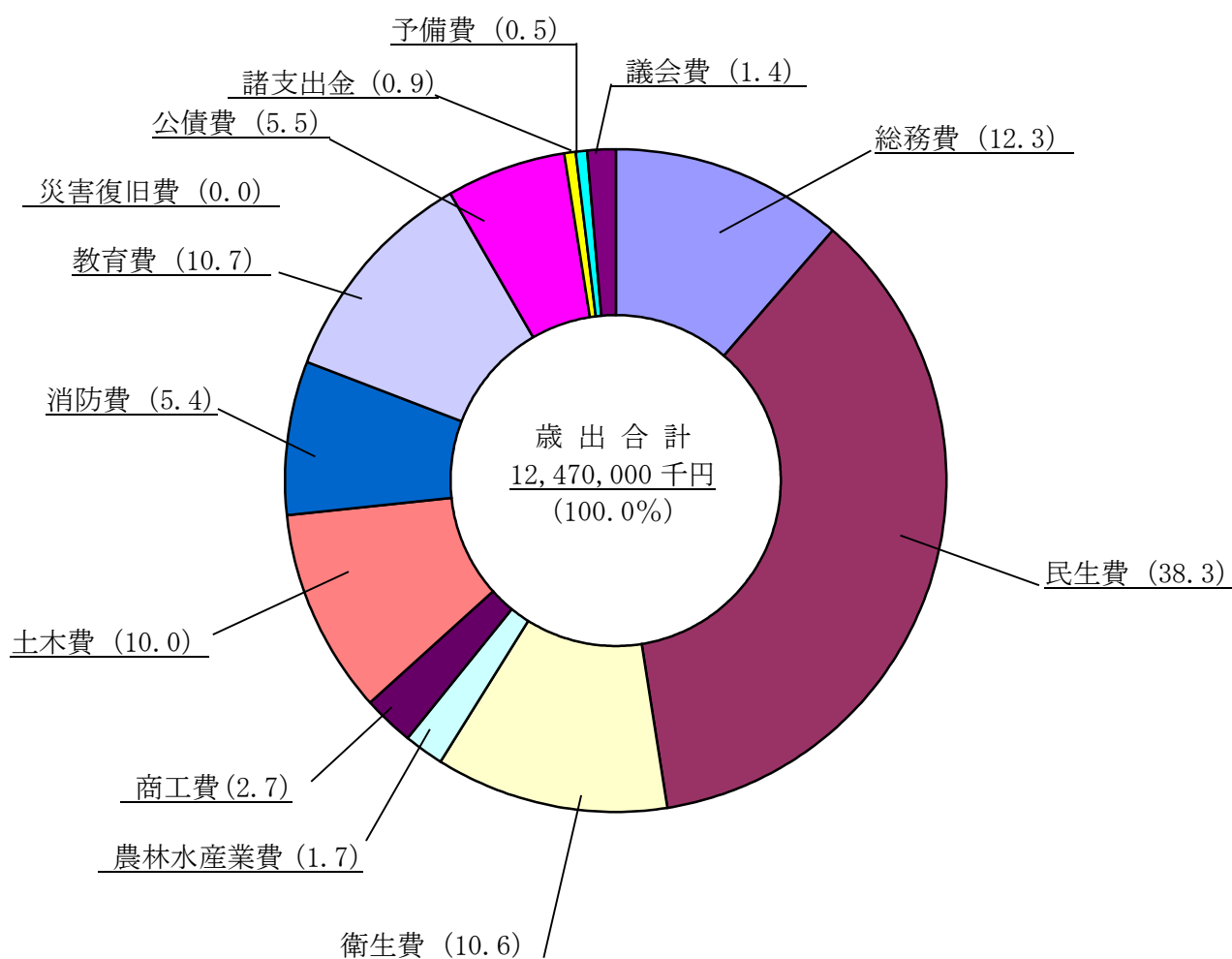
一般会計予算と消防予算内訳

(単位:千円)

区 分		令和2年度	令和元年度	前年度比 (%)
町 一 般 会 計		12,470,000	12,410,000	0.5
消 防 費		679,149	687,793	△1.3
内 訳	常 備 消 防 費	629,396	623,304	1.0
	非 常 備 消 防 費	49,585	64,340	△22.9
	水 防 費	168	149	12.8

15 町予算歳出（目的別）構成図

令和2年度消防費 679,149千円 () 内の数字は「%」を示す。



1 6 町予算と常備消防費との比較

(単位:千円)

年 度 別	町 一 般 会 計	常 備 消 防 費	構成比(%)
平成 27 年度	11,744,000	709,826	6.0
平成 28 年度	12,308,000	814,236	6.6
平成 29 年度	12,003,000	663,950	5.5
平成 30 年度	12,250,000	665,467	5.4
令和元年度	12,410,000	623,304	5.0
令和 2 年度	12,470,000	679,149	5.4

1 7 消防職員勤務年数

(単位：人)

階 級 勤務年数	合 計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員
合 計 (人 員)	67	1	6	23	8	16	12	1
5 年未満	17					5	12	1
5 年以上 10 年未満	11					11		
10 年以上 15 年未満	2				2			
15 年以上 20 年未満	5				5			
20 年以上 25 年未満	2			1	1			
25 年以上 30 年未満	16	1		15				
30 年以上 35 年未満	10		3	6				
35 年以上 40 年未満	4		3	1				
40 年以上	0							

1 8 消防職員年齢状況

(単位：人)

階 級 年 齢	合 計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員
合 計 (人 員)	6 7	1	6	2 3	8	1 6	1 2	1
2 0 歳未満	4						4	
2 0 歳以上 2 5 歳未満	1 1					5	6	
2 5 歳以上 3 0 歳未満	1 2					1 0	2	
3 0 歳以上 3 5 歳未満	1					1		
3 5 歳以上 4 0 歳未満	7				7			
4 0 歳以上 4 5 歳未満	9			8	1			
4 5 歳以上 5 0 歳未満	1 1			1 1				
5 0 歳以上 5 5 歳未満	7		3	3				1
5 5 歳以上 6 0 歳未満	5	1	3	1				
平 均 年 齢	37.2	55.0	54.8	46.7	37.4	25.6	21.6	50.0

1 9 消防職員居住別

(単位：人)

居住地別 階級別	合 計	構 成 比 (%)	愛 川 町 内							町 外
			半 原	田 代	三 増	角 田	中 津	八 菅・ 棚 沢	春 日 台	
合計 (人員)	6 7	100.0	2	1		6	1 7	1	2	3 8
消 防 司 令 長	1	1.5				1				
消 防 司 令	6	9.0				1	2			3
消 防 司 令 補	2 3	34.3	1	1		2	4		1	1 4
消 防 士 長	8	11.9				1	2			5
消 防 副 士 長	1 6	23.9					5			1 1
消 防 士	1 2	17.9	1			1	3	1	1	5
事 務 職 員	1	1.5					1			

※ 町内居住者は、43.3%を占めています。

20 消防職員採用状況

(単位：人)

年度別 区 分	令和		平成							
	2	元	30	29	28	27	26	25	24	23
定 員	68	68	68	68	68	68	71	71	71	71
実 員	67	67	68	68	67	69	70	68	69	69
事 務 職 員	1	1	1	1	1	2	3	3	3	3
退 職 職 員		2	4	4	1	7	4	3	1	1
新 採 用 職 員	1	4	4	3	5	4	7			

※ 実員数には事務職員を含み、町部局出向職員は含みません。

※ 愛川町職員定数条例第2条第2項及び第3項により新採用職員は定員数には含みません。(上記表の実員数には新採用職員は含まれています。)

21 職員研修等の状況

社会情勢の変化に伴い、複雑多様化する災害に的確に対処していくため、公務の基礎的知識はもとより、より高度な知識・技術の修得、広い視野に立った判断力と環境変化への適応力の育成のため教育研修に参加するとともに、自己啓発の促進を図り、町民全体の奉仕者としての自覚と職員個々の資質の向上を図っています。

(1) 消防学校教育

種 別	教 育 科 目	期 間	回 数	人 員
初 任	教 育	6ヶ月	1	2
専科教育	救 急 科	43日	1	2
	救 助 科	20日	1	1

(2) 研 修 等

研 修 科 目	人 数	日数等	研 修 場 所
救急救命士新規養成課程	1 名	6 ヶ月	救急救命東京研修所
救急救命士就業前病院実習	1 名	1 ヶ月	東海大学医学部附属病院
救急救命士気管挿管病院実習	1 名	3 0 症例	東名厚木病院
救命救急士再教育病院実習	9 名	4 8 時間	東名厚木病院
救急救命士ビデオ喉頭鏡病院実習	1 名	2 症例	東名厚木病院
湘南MC救急セミナー	1 1 0 名	毎 月	東海大学医学部附属病院

(3) 庁内外研修及び講習会

研 修 科 目	受講日	場 所	内 容
消防総務・消防財政実務研修会	R1/7/31	横浜市 社会福祉センター ホール	講師：田村 俊雅 氏 武井 雅樹 氏
神奈川県消防長会教養研修会	R1/10/28	県消防学校	「消防職員の現場活動にか かる惨事ストレス対策」等 講師：笹川 真紀子 氏
管理監督者研修（庁内研修）	R1/11/5	町役場 4 階会議室	「ほめ方・叱り方研修」 講師：佐藤 敬子 氏
県西部地区消防行政協議会職員 研修会	R 1 /10/28	箱根町役場 4 階会議室	米海軍日本管区司令部消防 隊等
「危機管理（庁内防犯対応） 研修」	R1/5/30	役場庁舎 庁舎分館	講師：西村 幸伸 氏

2 2 消防職員特殊技能有資格者

		階 級 別							所 属 別			合 計
		消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員	消 防 本 部	消 防 署 本 署	半 消 防 原 分 署	
実 員		1	6	23	8	16	12	1	9	38	20	67
運 転 免 許	普 通	1	3	11	2	2	7	1	9	14	4	27
	普 通 （ A T 限 定 ）											
	準 中 型 （ 5 t 限 定 ）					13	5			12	6	18
	中 型 （ 8 t 限 定 ）	1	5	15	6	1			4	14	10	28
	大 型	1	5	22	7	11	2		8	25	15	48
	大 型 特 殊	1	1	2					2	1	1	4
	け ん 引		1	1					1		1	2
	普 通 自 動 二 輪	1	4	13	5	7	2		6	19	7	32
大 型 自 動 二 輪			2	4		1			1	2	4	7
危 険 物 取 扱 者	甲 種				1				1			1
	乙 種	1 類										
		2 類										
		3 類			2	1			1		1	2
		4 類	1	2	18	8	15	8	6	31	15	52
		5 類			1	1			1		1	2
		6 類			1	1			1		1	2
	丙 種			5	8				3	5	5	13
消 防 設 備 士				1				1			1	
特 殊 無 線 技 士		1	5	22	8	16	8		8	32	20	60
潜 水 士		1	4	11	5	8	3		8	14	10	32
小 型 船 舶 操 縦 免 許		1	2	12	4	2			5	10	6	21
高 圧 ガ ス 製 造 保 安 責 任 者		1							1			1
小 型 移 動 式 ク レ ーン 運 転 技 能		1	5	21	5	5	1		7	19	12	38
玉 掛		1	4	21	6	5	1		6	19	13	38
救 急 救 命 士			3	4	2	3				5	7	12
応 急 手 当 指 導 員 証		1	5	23	8	16	6		7	32	20	59
酸 素 欠 乏 作 業 主 任 者			2	3					1	2	2	5
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者		1	2	8	5	4	1		7	9	5	21
アーク溶接技能講習修了証		1	1				1		2	1		3
ガス溶接技能講習修了証		1	3	8					3	3	6	12
特定化学物質作業主任者			1							1		1
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者		1	1	1					2		2	4
予 防 技 術 資 格 者		1	1	1					3			3
車 両 系 建 設 機 械 運 転 技 能		1	1	1					2		1	3
有 機 溶 剤 作 業 主 任 者		1		2					2	1		3
足 場 組 立 主 任				8	1					7	2	9
レ ス キ ュ ー 3			1	6	2	5			2	6	7	15
防 災 士		1	2	14	6				3	12	8	23

予 防 関 係



令和元年度防火ポスター入選作品

町立小・中学校の児童、生徒から防火ポスターを募集し入選した作品をポスターにして事業所等へ配付しました。

2 3 火災予防の概要

火災から町民の尊い生命、大切な財産を守るため、火災予防運動・危険物安全週間等の各種行事及び事業所への立入検査を通して、自主防火管理体制の確立強化、火災予防思想の普及に努めています。また、火災予防広報や高齢者世帯への防火訪問等を実施し火災の発生防止に努めています。

1 立入検査

(令和2年3月31日現在)

区 分	総数	実施数	実施率
防火対象物（棟）	1,677	532	31.7 %
危険物施設（施設）	274	225	82.1 %
危険物運搬車両等（台）	13	13	100.0 %
特別査察（対象物等）		12	

2 防火指導（消防用設備取扱講習会含む）

区 分	参加人員数等	実施時期
事業所等	31回 2,778名	通年
保育園	6園 488名	秋季火災予防運動
幼稚園	4園 440名	春季火災予防運動
一人暮らし高齢者宅	281名	2～3月
屋内消火栓取扱講習会	16事業所 75名	10月23・24日

3 体験学習等

区 分	参加人員数等	実施時期
町内小学3年生	6校 312名	1月
中学2年生職場体験	2校 10名	11月

4 少年消防クラブ活動

区 分	参加人員数	実施時期
消防署一日体験	34名	7月
夜回り広報	15名	秋季火災予防運動

5 防火ポスターの募集

区 分	応募数	入選数
小・中学校応募作品数	576点	50点

6 火災予防広報

乾燥注意報の発表時など、火災の発生しやすい気象状況時において消防車両を利用したの広報や、年2回の火災予防運動週間に火災予防看板を掲出し、火災発生防止の注意喚起に努めています。

24 立入検査実施状況

(令和2年3月31日現在)

区 分		防火対象物総数	立入検査実施数	指導対象数	改善報告数
合 計		1,677	532	159	132
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2	2
	ロ	公会堂又は集会場	27	3	2
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類			
	ロ	遊技場又はダンスホール	3	3	1
	ハ	風俗営業等、これらの類			
	ニ	カラオケボックス、これらの類	1	1	1
3	イ	待合、料理店、これらの類			
	ロ	飲食店	19	5	2
4		百貨店、店舗又は展示場	44	38	5
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所	14	14	1
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅	463	41	0
6	イ	病院、診療所又は助産所	10	6	2
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	15	14	3
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等	22	16	8
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類	7	7	1
7		学校（小・中・高・大）、各種学校	23	23	6
8		図書館、博物館、美術館、これらの類	5	4	0
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場			
	ロ	イ以外の公衆浴場			
10		車両の停車場等			
11		神社、寺院、教会等、これらの類	6	0	0
12	イ	工場又は作業場	335	147	37
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ			
13	イ	自動車の車庫又は駐車場	15	6	0
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫			
14		倉庫	256	102	28
15		前各項に該当しない事業場	205	88	25
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が(1)項から(4)項まで、(5)項イ、(6)項又は(9)項イに掲げる防火対象物の用途に供されているもの	119	6	4
	ロ	イ以外が存在する複合用途防火対象物	86	6	4
17		重要文化財			

※記載している防火対象物数は延べ面積150㎡以上の防火対象物です。

25 防火対象物・防火管理状況

(令和2年3月31日現在)

防火対象物区分		項目	消防法 第8条 該当	防火管理者		消防計画		訓練実施 状況 (報告数)
				届出数	選任率 (%)	届出数	選任率 (%)	
合 計			306	279	91.2	279	91.2	161
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2	100.0	2	100.0	
	ロ	公会堂又は集会場	27	22	81.5	22	81.5	2
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類						
	ロ	遊技場又はダンスホール	3	3	100.0	3	100.0	3
	ハ	風俗営業等、これらの類						
	ニ	カラオケボックス、その他遊興のための設備又は物品を個室	1	1	100.0	1	100.0	
3	イ	待合、料理店、これらの類						
	ロ	飲食店	18	18	100.0	18	100.0	15
4		百貨店、店舗又は展示場	22	22	100.0	22	100.0	32
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所	14	14	100.0	14	100.0	
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	28	21	75.0	21	75.0	2
6	イ	病院、診療所又は助産所	4	4	100.0	4	100.0	3
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	15	11	73.3	11	73.3	12
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等	15	15	100.0	16	106.7	19
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類	4	4	100.0	4	100.0	1
7		学校（小・中・高・大）、各種学校	10	10	100.0	10	100.0	7
8		図書館、博物館、美術館、これらの類	5	5	100.0	4	80.0	1
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場						
	ロ	イ以外の公衆浴場						
10		車両の停車場等						
11		神社、寺院、教会等、これらの類						
12	イ	工場又は作業場	55	52	94.5	52	94.5	38
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ						
13	イ	自動車の車庫又は駐車場						
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫						
14		倉庫	29	28	96.6	28	96.6	14
15		前各項に該当しない事業場	23	23	100.0	23	100.0	5
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が(1)項から(4)項まで、(5)項イ、(6)項又は(9)項イに掲げる防火対象物の用途に供されているもの	26	21	80.8	21	80.8	4
	ロ	イ以外が存在する複合用途防火対象物	5	3	60.0	3	60.0	3
17		重要文化財						

26 防火対象物定期点検報告を必要とする対象物

(令和2年3月31日現在)

防火対象物区分		項目	対象数 合計	点検を要する 防火対象物		点検基準適合 防火対象物		特例認定承認 防火対象物	
				収容人員 300人以上	特定 1 階段	収容人員 300人以上	特定 1 階段	収容人員 300人以上	特定 1 階段
1 項イ		劇場、映画館、演芸場、観覧場	2	2		2			
1 項ロ		公会堂又は集会場	3	3		3			
2 項ロ		遊技場又はダンスホール	3	3		3			
4 項		百貨店、店舗又は展示場	5	5		5		2	
5 項イ		旅館、ホテル又は宿泊所	1	1		1			
6 項イ		病院、診療所等	1	1		1			

27 建築確認申請等消防同意状況

(令和元年12月31日現在)

区 分		合 計	指導有	指導無	新築	増築	模様替	移転	その他
合 計		69	32	37	66	1			2
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場							
	ロ	公会堂又は集会場							
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類							
	ロ	遊技場又はダンスホール							
	ハ	風俗営業等、これらの類							
	ニ	カラオケボックス、その他遊興のための設備又は物品を個室							
3	イ	待合、料理店、これらの類							
	ロ	飲食店							
4		百貨店、店舗又は展示場	1	1	1				
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所							
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	1	1	1				
6	イ	病院、診療所又は助産所							
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等							
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等							
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類							
7		学校（小・中・高・大）、各種学校	2	2					2
8		図書館、博物館、美術館、これらの類							
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場							
	ロ	イ以外の公衆浴場							
10		車両の停車場等							
11		神社、寺院、教会等、これらの類							
12	イ	工場又は作業場	4	2	2	3	1		
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ							
13	イ	自動車の車庫又は駐車場	5	5	5				
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫							
14		倉庫	9	4	5	9			
15		前各項に該当しない事業場	4	1	3	4			
16	イ	複合用途防火対象物（特定用途含む）							
	ロ	イ以外が存在する複合用途防火対象物	3	1	2	3			
専用住宅（長屋住宅含む）・他		40	22	18	40				

28 中高層・高層建築物

(令和2年3月31日現在)

階別	合計	3階	4階	5階	6階	7階	8階
棟数	219	151	36	20	10	0	2

29 防災管理定期点検を必要とする対象物

(令和2年3月31日現在)

項目		合計	11階以上 延面積10,000㎡以上	5階以上10階以下 延面積20,000㎡以上	4階以下 延面積50,000㎡以上
防火対象物区分					
12 イ	工場又は作業所	3	0	2	1

30 消防用設備等届出状況

(令和2年3月31日現在)

区 分			着工届	設置届
1	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場		
	ロ	公会堂又は集会場		
2	イ	キャバレー、カフェ、これらの類		
	ロ	遊技場又はダンスホール		2
	ハ	風俗営業等、これらの類		
	ニ	カラオケボックス、これらの類		
3	イ	待合、料理店、これらの類		
	ロ	飲食店		1
4		百貨店、店舗又は展示場		3
5	イ	旅館、ホテル又は宿泊所		
	ロ	寄宿舍、下宿又は共同住宅		1
6	イ	病院、診療所又は助産所		
	ロ	養護老人ホーム、有料老人ホーム等	4	6
	ハ	老人福祉施設、児童福祉施設等		3
	ニ	幼稚園、盲学校、これらの類		
7		学校（小・中・高・大）、各種学校		1
8		図書館、博物館、美術館、これらの類		
9	イ	蒸気浴場、熱気浴場		
	ロ	イ以外の公衆浴場		
10		車両の停車場等		
11		神社、寺院、教会等、これらの類		
12	イ	工場又は作業場	2	22
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ		
13	イ	自動車の車庫又は駐車場	2	2
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫		
14		倉庫	9	12
15		前各項に該当しない事業場	2	3
16	イ	複合用途防火対象物（特定用途）	1	1
	ロ	16項イ以外の複合用途防火対象物		
17		文化財		
合 計			20	57

31 予防関係諸届出状況

(令和2年3月31日現在)

区 分	合 計	本署管内	分署管内
防火対象物使用開始届出	15	11	4
少量危険物貯蔵取扱届出	9	9	0
指定可燃物貯蔵取扱届出	5	4	1
変電・発電・蓄電池等設備設置届出	16	13	3
炉・ボイラー等設置届出	9	9	0

3 2 倍数・類別危険物施設状況

(令和2年3月31日現在)

危険物施設所有事業所数 109事業所

製造所等の別 倍数別・類別		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取扱所	
				屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	一 般
合 計		274	10	84	33	2	43	2	13	19	28	40
倍 数 別	5 倍以下	92	1	31	9	1	18	2	12	1	3	14
	5 倍超え 10 倍以下	58	1	18	6		13			6	1	13
	10 倍超え 50 倍以下	77	5	12	16	1	7		1	12	12	11
	50 倍超え 100 倍以下	16	2	7	1	/	2	/			2	2
	100 倍超え 150 倍以下	10		7	1	/		/			2	
	150 倍超え 200 倍以下	8		1		/	1	/			6	
	200 倍超え 1,000 倍以下	7	1	2		/	2	/			2	
	1,000 倍超え 5,000 倍以下	6		6		/		/	/	/		
	5,000 倍超え	0				/		/	/	/		

合 計			274	10	84	33	2	43	2	13	19	28	40
類 別	単	第1類	1		1						/	/	
		第2類	0								/	/	
		第3類	0								/	/	
	独	第4類	263	8	75	33	2	43	2	13	19	28	40
		第5類	2		2						/	/	
		第6類	0								/	/	
	混 在		8	2	6						/	/	

※ 第4類…ガソリン、灯油、重油など石油類の危険物です。

3 3 危険物施設事務処理状況

(令和2年3月31日現在)

製造所等の別 区分		合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取扱所	
				屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	一 般
許可・認可等	設置許可	4		1			2					1
	変更許可	18		5							3	10
	設置の完成検査	2		2								
	変更の完成検査	17		4							3	10
	仮使用	14		3							2	9
	仮貯蔵・仮取扱	1									1	
	予防規程	1		1								
各種届	譲渡・引渡届	22		3	3	1	3			3	4	5
	品名・倍数変更届	17		9		1						7
	軽微な変更届	21	1	1			1				3	15
	保安監督者選解任	35	1	9	3	1	5	1		1	9	5
	名称変更届	40		9	3	1	5		4	3	8	7
	廃止届	1		1								

3 4 危険物完成検査前検査状況

(令和2年3月31日現在)

合計	水張検査 (10,000ℓ以下)	水張検査 (10,000ℓ超え)	水圧検査 (10,000ℓ以下)	水圧検査 (10,000ℓ超え)
291	287	4	0	0

3 5 危険物手数料状況

(令和2年3月31日現在)

区分 年度	合計	許可申請 (設置・変更)	完成検査 (設置・変更)	仮貯蔵 仮取扱	仮使用	水張検査 水圧検査
令和元年度	2,616,000	473,500	295,500	5,400	75,600	1,766,000
平成30年度	1,794,300	373,000	94,500	5,400	32,400	1,289,000
平成29年度	1,980,900	407,000	216,500	5,400	54,000	1,298,000
平成28年度	2,081,250	443,000	241,250	5,400	75,600	1,316,000
平成27年度	1,899,900	231,500	119,000	0	32,400	1,517,000
平成26年度	2,110,250	365,000	195,250	0	54,000	1,496,000

3 6 民間防火団体の活動概要

町では現在、「幼年消防クラブ」・「春日台少年消防クラブ」・「婦人防火（消防）クラブ」・「春日台区シルバー消防隊」の民間防火団体があり、年間を通じて火災予防等の普及啓発活動を展開しています。

【幼年消防クラブ】

幼児期に火の大切さ、火の怖さなどの正しい火の取り扱いを身に付けて、火遊びによる火災をなくすとともに将来にわたり、健全な社会の一員となる基礎を養うことを目的に、昭和59年に保育園単位で幼年消防クラブが結成されました。以来「地域への火災予防の呼びかけ」や「防火訪問の開催」等を実施しています。

☆ 主な活動・・・防火訪問等

名 称	会員数	名 称	会員数
半原幼年消防クラブ	28	春日台幼年消防クラブ	45
田代幼年消防クラブ	26	中津幼年消防クラブ	34
高峰幼年消防クラブ	33	中津南幼年消防クラブ	43
6クラブ 合計 209名 （各クラブ 昭和59年4月1日 発足）			

【少年消防クラブ】

少年少女の頃より火災予防に関する知識、技能を養い、将来にわたり火災予防の成果を上げるため、地域単位で結成され、各種防火活動を通じて家庭、地域における防火啓発活動に努めています。

☆ 主な活動・・・消防署1日体験・夜回り広報等

名 称	会員数	発足年月日
春日台少年消防クラブ	63	昭和56年8月20日



幼年消防クラブ員防火訪問状況

警 防 関 係



3 7 火災概要

区 分			令和元年中	平成30年中	増減数	参 考	
						神奈川(30年中)	全国(30年中)
出火件数(件)	合 計		7	10	△3	1,886	37,981
	建	物	4	4	0	1,148	20,764
	林	野	0	0	0	10	1,363
	車	両	2	0	2	173	3,660
	そ の 他		1	6	△5	552	12,124
	船	舶	—	—	—	3	69
	航 空 機		—	—	—	0	1
焼損棟数(棟)	合 計		5	10	△5	1,505	29,962
	全	焼	1	6	△5	209	7,138
	半	焼	0	0	0	66	1,658
	部 分 焼		0	1	△1	354	7,833
	ぼ	や	4	3	1	876	13,333
焼損面積	建	床面積(m ²)	120	527	△407	43,913	1,063,583
	物	表面積(m ²)	0	0	0	6,290	117,981
	林 野 (a)		0	0	0	29	60,624
	枯 草 (m ²)		260	11,659	△11,399		
り災世帯(世帯)	合	計	3	5	△2	1,170	18,180
	全	損	1	4	△3	181	3,978
	半	損	0	0	0	74	1,233
	小	損	2	1	1	915	12,969
り 災 人 員 (人)			8	16	△8	2,528	39,758
損 害 額 (千 円)			4,355	48,909	△44,554	4,873,484	84,627
死 者 (人)			1	0	1	73	1,427
負 傷 者 (人)			2	1	1	352	6,114
出 火 率 (%)			1.7	2.4	△0.7	2.1	3.0

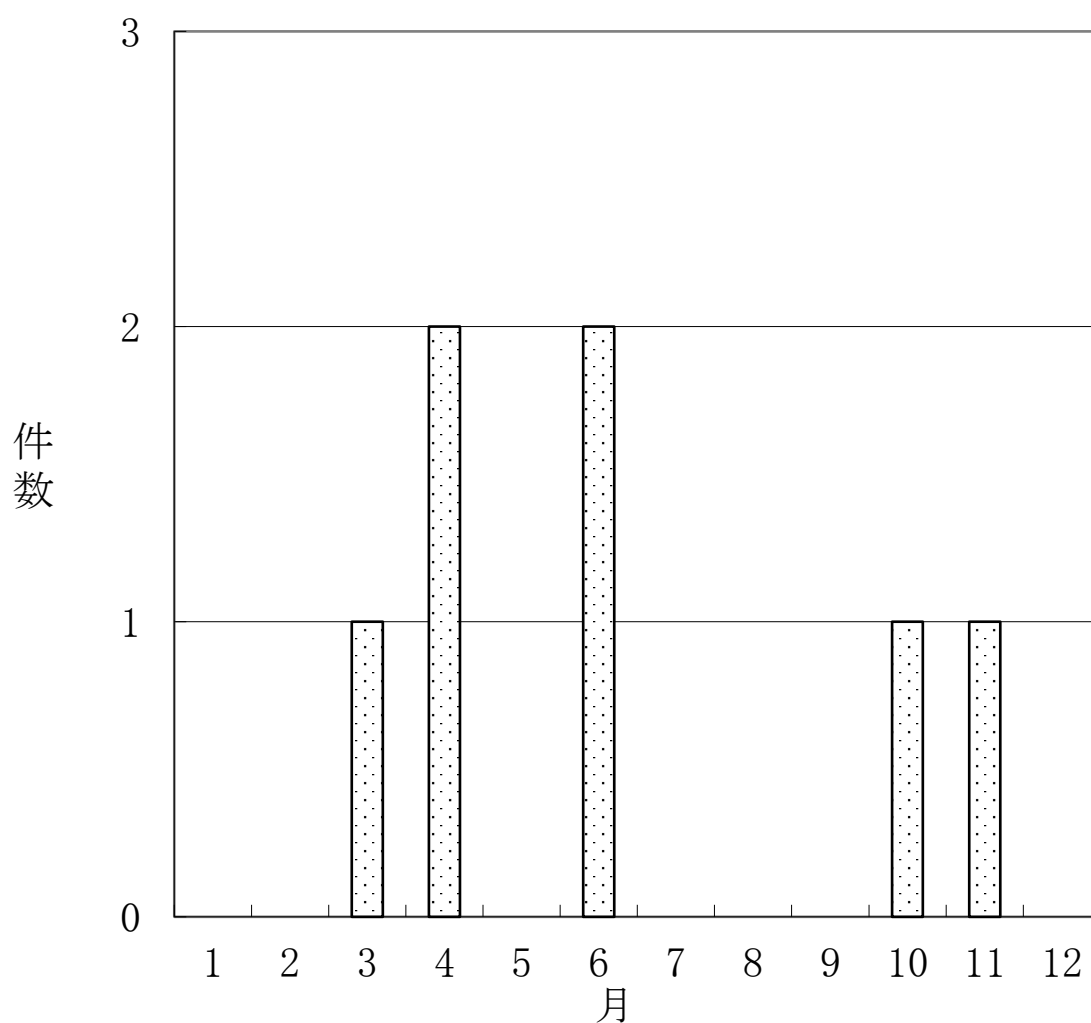
38 火災詳細一覧

号数	種 別	出 火 時 刻	地 区	火 災 概 要	出 火 原 因
1	車 火 両 災	3 月 10 日 8 時 15 分	半 原	普通自動車1台焼損	ライター
2	そ の 他	4 月 4 日 12 時 22 分	田 代	枯草260㎡	たき火の火の粉
3	建 物	4 月 5 日 6 時 49 分	中 津	浴室 1棟 ぼや	帯電衣類の スパーク
4	建 物	6 月 17 日 22 時 30 分	中 津	居室 1棟 ぼや 床、布団焼損	線香
5	建 物	6 月 22 日 14 時 7 分	中 津	機械室 1棟 ぼや 破砕機の油圧 ユニット、モーター	不明
6	車 火 両 災	10 月 26 日 19 時 13 分	半 原	軽自動車1台焼損	排気管
7	建 物	11 月 13 日 0 時 46 分	田 代	専用住宅 1棟 全焼 1棟 ぼや 約120㎡	不明

3 9 四季別出火件数

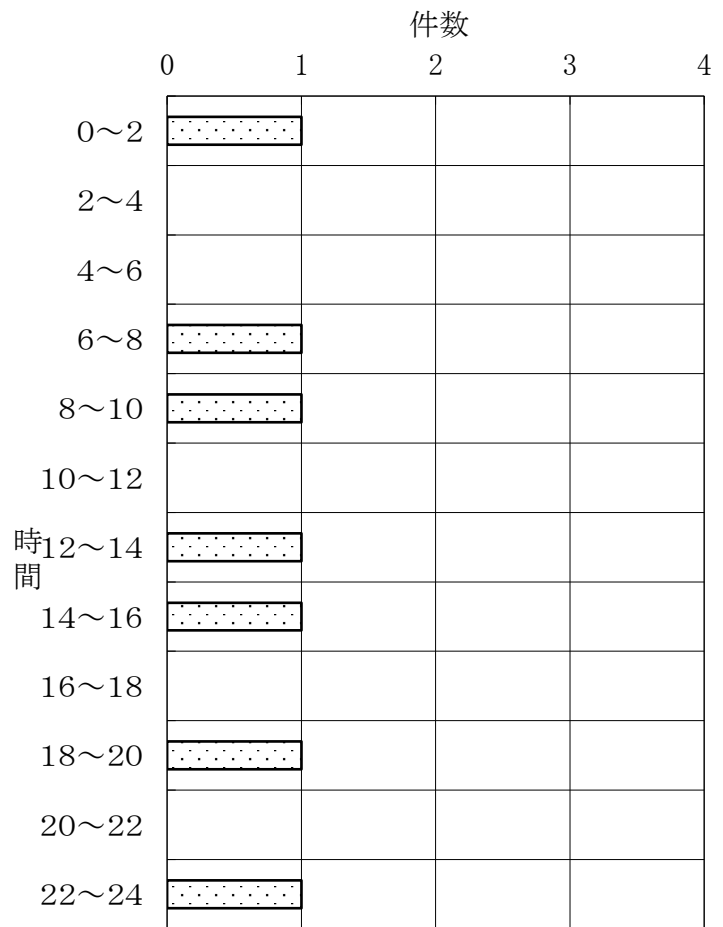
区 分 四半期別	出火件数 ()内は建物火災		割 合 (%)	損 害 額 (千円)	割 合 (%)
春季 (3・4・5月)	3	(1)	42.8	67	1.5
夏季 (6・7・8月)	2	(2)	28.6	1,847	42.4
秋季 (9・10・11月)	2	(1)	28.6	2,441	56.1
冬季 (12・1・2月)	0	(0)	0.0	0	0.0
合 計	7	(4)	100.0	4,355	100.0

月別出火件数



4 0 時間別火災発生件数

時間別	件数	建物火災
0～2	1	1
2～4	0	0
4～6	0	0
6～8	1	1
8～10	1	0
10～12	0	0
12～14	1	0
14～16	1	1
16～18	0	0
18～20	1	0
20～22	0	0
22～24	1	1
不 明	0	0
合 計	7	4



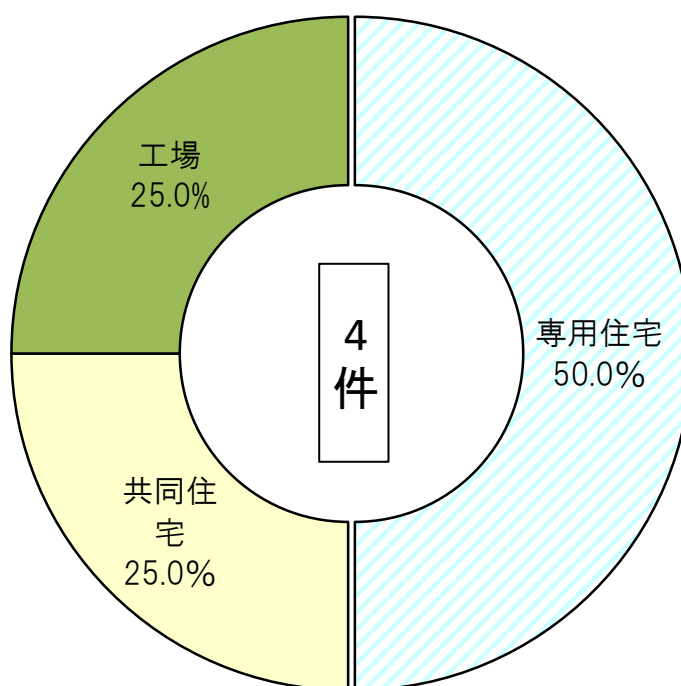
4 1 火災の覚知方法別

区 分 覚知方法別	令 和 元 年 中		平 成 30 年 中	
	件数	割 合 (%)	件数	割 合 (%)
火災報知専用電話(加入電話)	1	14.3	2	20.0
火災報知専用電話(携帯電話)	6	85.7	7	70.0
事 後 聞 知	0	0	0	0
加 入 電 話	0	0	1	10.0
駆 け 付 け	0	0	0	0
そ の 他	0	0	0	0
合 計	7	100	10	100

4 2 建物火災用途別状況

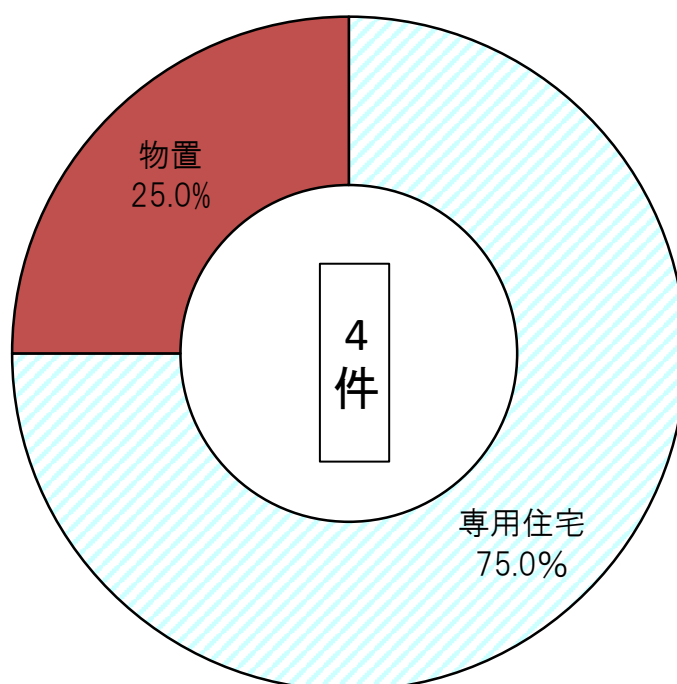
(令和元年中)

用 途	件 数
専 用 住 宅	2
共 同 住 宅	1
作 業 場	0
工 場	1
物 置	0
合 計	4

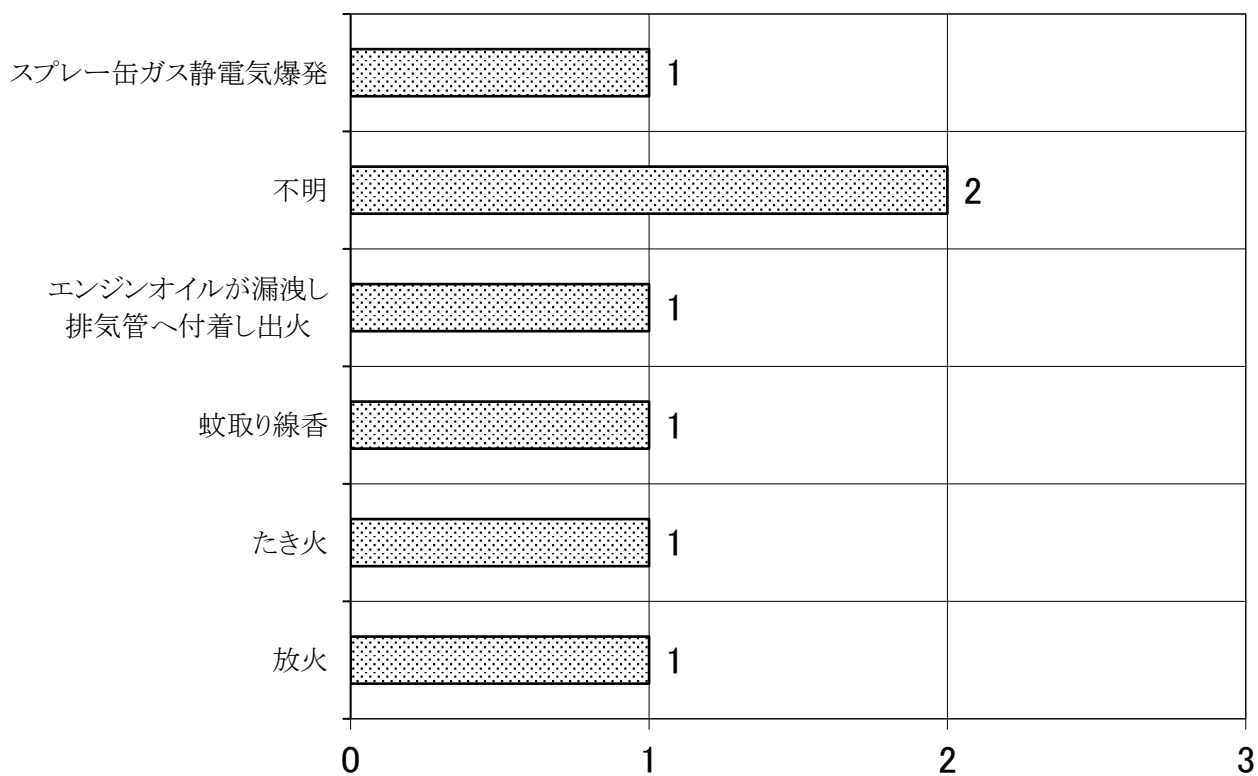


(平成30年中)

用 途	件 数
専 用 住 宅	3
共 同 住 宅	0
作 業 場	0
工 場	0
物 置	1
合 計	4



4 3 原因別出火件数



全国的に放火・放火の疑いによる火災件数が最も多く、本町においても放火予防対策として、放火をされない環境づくりのPRに努めています。

4 4 初期消火状況

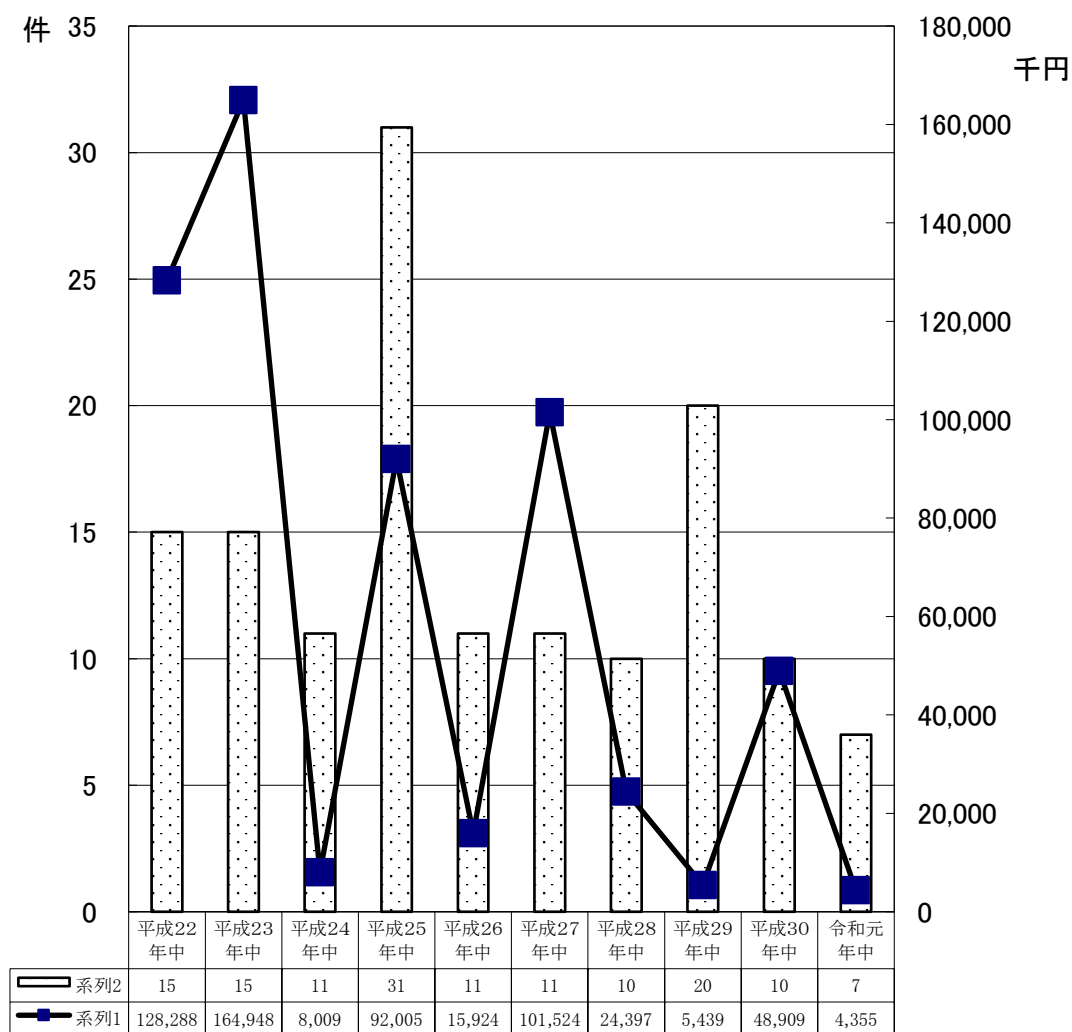
消 火 器 具	消 火 器	水 道 水	水バケツ	消 火 栓	土	そ の 他	合 計
実 施 回 数	2	2	0	1	0	3	8
使用割合 (%)	25	25	0	12.5	0	37.5	100

火災の初期消火状況は、7件中5件の割合で初期消火活動が実施されています。

※1件の火災に対して、消火器具を重複して使用しているため、合計数が実施件数と異なります。

4 5 過去10年間の出火件数と損害額

年別	区分	出火 件数	損害額 (千円)	1件あたりの 損害額(千円)
平成22年中		15	128,288	8,552
平成23年中		15	164,948	10,996
平成24年中		11	8,009	728
平成25年中		31	92,005	2,967
平成26年中		11	15,924	1,447
平成27年中		11	101,524	9,229
平成28年中		10	24,397	2,439
平成29年中		20	5,439	271
平成30年中		10	48,909	4,890
令和元年中		7	4,355	622



4 6 地区別火災発生状況

(令和元年中)

区 分 地区別	火災種別										り 災 人 員	損 害 額 (千 円)
	合 計	建 物	火 災					林 野 火 災	車 両 火 災	そ の 他		
			焼損棟数									
			計	全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や					
合 計	7	4	5	1			4		2	1	8	4,355
半 原	2	0							2			121
田 代	2	1	2	1			1			1	3	2,387
三 増	0	0										
角 田	0	0										
中 津	3	3	3				3				5	1,847
八菅山・棚沢	0	0										
春 日 台	0	0										
工 業 団 地	0	0										

(平成30年中)

区 分 地区別	火災種別									り 災 人 員	損 害 額 (千 円)	
	合 計	建 物	火 災					林 野 火 災	車 両 火 災			そ の 他
			焼損棟数									
			計	全 焼	半 焼	部分 焼	ぼ や					
合 計	10	4	10	6		1	3			6	16	48,909
半 原	2	2	3	1		1	1				6	18,688
田 代	1	0								1		
三 増	1	1	1	1								39
角 田	2	0								2		
中 津	4	1	6	4			2			3	10	30,182
八菅山・棚沢	0	0										
春 日 台	0	0										
工 業 団 地	0	0										

4 7 救助出動概要

救助出動件数

区 分	令 和 元 年 中	平 成 3 0 年 中
出 動 件 数	5 2	3 7
活 動 件 数	2 6	2 5
救 出 人 員	1 3	2 0
管 外 出 動 件 数	1	5

管外救助事案

区 分	令 和 元 年 中	平 成 3 0 年 中
出 動 件 数	1	5
活 動 件 数	0	3
救 出 人 員	0	4

事故種別

区 分	合計	交通	火災	建物	水難	機械	ガス	破裂	その他
出動件数	5 2	8	3	8	1	2	0	0	3 0
活動件数	2 6	1	3	5	1	1	0	0	1 5
救出人員	1 3	1	0	5	1	1	0	0	5

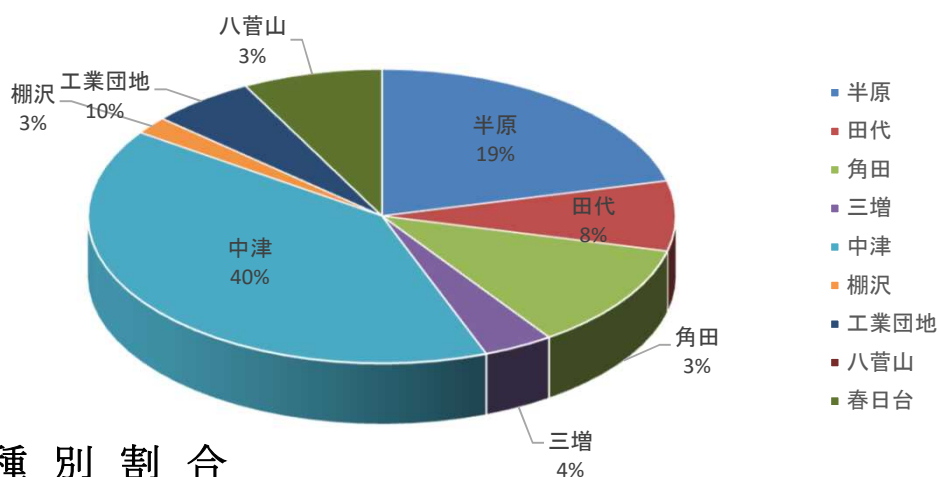
神奈川県下消防相互応援協定に基づくヘリコプターの要請状況

山岳救助事案 0 件：川崎市消防局航空隊

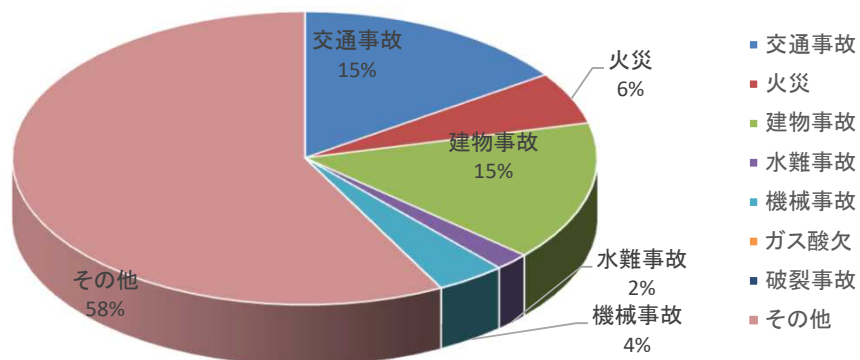
4 8 地区別・種別出動状況

区 分	合 計	交通事故	火 災	建物事故	水難事故	機械事故	ガス酸欠	破裂事故	そ の 他
合 計	52	8	3	8	1	2	－	－	30
半 原	11	1	2	1	1	－	－	－	6
田 代	4	－	1	－	－	1	－	－	2
角 田	6	－	－	1	－	－	－	－	5
三 増	2	1	－	－	－	1	－	－	－
中 津	21	4	－	5	－	－	－	－	12
棚 沢	1	－	－	－	－	－	－	－	1
工業団地	3	1	－	－	－	－	－	－	2
八 菅 山	－	－	－	－	－	－	－	－	－
春 日 台	4	1	－	1	－	－	－	－	2

地区別割合



事故種別割合



4 9 警戒出動概要

警戒出動とは、交通事故車両等から燃料やオイルが漏洩した「危険物の流出」やプロパンガスや都市ガス等の「ガス漏洩」で火災や爆発事故に発展する可能性があるため消防隊が出動し、災害を未然に防ぐ活動です。

種別出動件数

種別 年	合計	自火報 の発報	たき火 の放置	危険物 の流出	ガス 漏洩	怪煙 偵察	火気の 消し忘れ	その他
令和元年中	25	2	0	13	1	2	0	7
30年中	35	8	1	13	1	7	0	5

地区別出動件数

地区 年	合計	半原	田代	角田	三増	中津	春日台	八菅山 ・棚沢	町外
令和元年中	25	6	1	6	2	7	2	0	1
30年中	35	5	4	4	2	14	2	2	2

活動内容

種 別	件数	活 動 内 容
自火報の発報	2	現場確認・処置
危険物の流出	13	油処理剤散布
怪煙偵察	2	口頭指導
たき火の放置	0	消火活動
ガス漏洩	1	拡散防止・広報活動
その他	7	消火活動

50 風水害出動概要

種別出動状況

年 \ 種別	合 計	床上浸水	床下浸水	冠 水	崖崩れ	倒 木	その他
令和元年中	3	0	0	0	1	2	0
30年中	17	0	0	0	0	7	10

地区別出動状況

地区 \ 種別	合 計	床上浸水	床下浸水	冠 水	崖崩れ	倒 木	その他
合 計	3	0	0	0	1	2	0
半 原	2	0	0	0	1	1	0
田 代	1	0	0	0	0	1	0
角 田	0	0	0	0	0	0	0
三 増	0	0	0	0	0	0	0
中 津	0	0	0	0	0	0	0
春 日 台	0	0	0	0	0	0	0
棚 沢	0	0	0	0	0	0	0

※ 凡例

床上浸水 …… 住家のうち居住の用に供する部分の床を超える浸水または地盤面より45cmを超えた浸水。

床下浸水 …… 床上浸水に至らない程度に浸水したもの。

冠水 …… 田畑や道路など普段は水のない土地が水に浸かったもの。

崖崩れ …… 降雨時や地震などの影響で地盤がゆるみ斜面が急激に崩れ落ちた現象。

倒木 …… 立木が倒れ住家や道路などに影響を及ぼしたもの。

その他 …… 上記以外の自然現象による内容で通報を受け出動したもの。

5 1 自然災害

【概要】

令和元年10月6日3時にグアム島のあるマリアナ諸島の東海上にて発生した台風19号(ハギビス)は、本体が上陸する前から、活発な雨雲が断続的に生じて強い雨が降り続け、非常に強い勢力を保ったまま、東海地方から関東地方に接近し上陸しました。これにより、東日本を中心に猛烈な風が吹くとともに、本体の非常に発達した雨雲により、広範囲で記録的な大雨となり、13都県で大雨特別警報が気象庁から発表されました。

【大雨特別警報の発表状況】

○神奈川県内における大雨特別警報が発表された市町村
相模原市、厚木市、愛川町、小田原市、箱根町、湯河原町、秦野市、南足柄市、清川村、大井町、松田町、伊勢原市、山北町
※愛川町では、12日15時30分に大雨特別警報が発表

【町の雨量と風速】

○降り始めからの総雨量(10月11日00時00分～10月12日23時00分)
・本署管内 343.0mm、分署454.5mm(参考値)
※平成11年8月14日の最大雨量305.5mmの観測記録を更新
○瞬間最大風速
・24.9m/s(10月12日20時08分)

【避難所開設状況】

11日15時00分に指定避難所9箇所及び福祉センターと農村環境改善センターを緊急一時避難場所として開設しました。また、川北区、宮本区、角田区、大塚区の4行政区では、児童館を避難場所として自主開設しております。

(内訳)

各避難所	男性	女性	合計
指定避難所、農村環境改善センター、福祉センター	375	503	878
川北児童館	2	6	8
宮本児童館	10	11	21
角田児童館	3	3	6
大塚児童館	2	0	2
避難者数の合計	392	523	915

【町の被害状況】

《人的及び物的》

人的被害なし。物的被害として住家一部損壊3棟。土砂崩れ1件（半原）

《停電関係》

半原川北地区約400件が停電（10月12日19時49分～13日1時11分）

【城山ダム放流について】

大雨の影響により、城山ダム緊急放流（異常洪水時防災操作）の連絡を受け、相模川沿いの下小沢・大塚下・六倉下地区250世帯710名の住民に対し、警戒レベル4「避難指示」を発令。町及び消防団にて巡回広報を実施するとともに、避難を促すための戸別訪問を実施しました。

（内訳）

下小沢地区 167世帯 500名

六倉下地区 83世帯 210名

【近隣市町村（相模原市）の被害による特別応援】

台風19号の影響により相模原市津久井牧野地区において大規模な土砂災害が発生し、2名の住民が行方不明となり、相模原市消防局から神奈川県へ災害派遣要請。県は、近隣消防本部（5市町）へ神奈川県下消防相互応援協定（特別応援）に伴い、派遣要請を実施しました。

《覚知日時》

令和元年10月12日21時46分

相模原市消防局

《発生場所》

相模原市緑区牧野地内

《災害派遣都市》

愛川町、厚木市、大和市、海老名市、綾瀬市

《本町派遣期間及び人員》

・令和元年10月15日から10月21日

※19日は降雨のため活動中止

・派遣人員・・・延べ35名



通 信 関 係



通 信 指 令 室

5 2 通信指令室の概要

通信指令室は、火災・救急をはじめ各種災害の通報受付や本署・分署への指令、消防隊・救急隊等への支援情報の伝達、救急病院への連絡や各種関係機関の連絡などを受け持っています。

「高機能消防通信指令システム」を平成29年4月1日に更新し新たに統合型位置情報通知装置を導入したことにより、一般電話及びIP電話さらに携帯電話からの119番通報の発信地データを瞬時に検索表示することが可能となりました。

また、車両運用端末装置（AVM）の導入により指令装置の車両編成に組み込まれた車両に対し、地図付き指令情報の送信やGPS装置による車両位置情報の管理が可能となり、より迅速な災害情報の伝達体制が構築されました。

加えて、令和元年5月1日から外国籍者からの言語に対応するため、指令台に多言語音声翻訳機能を整備し、多様化する緊急通報等に万全を期すとともに同年9月5日には、聴覚障害者の方々が円滑に通報することを可能とする Net 119を導入しました。

5 3 システムを構成する主な機器と設備

【指令台】

自動出動指令装置及び地図検索装置を搭載し、119番通報の受付、災害地点の決定、署々に対する出動指令など、災害の覚知から現場活動支援までを行う総合指令台です。

【自動出動指令装置】

災害地点を決定するための各種検索機と、災害種別・車両状況等により最適な出動隊を自動編成する指令システムの中核装置です。

【地図検索装置】

指令台及び自動出動指令装置と連動し、災害地点の地図や支援情報の検索及び表示を行います。

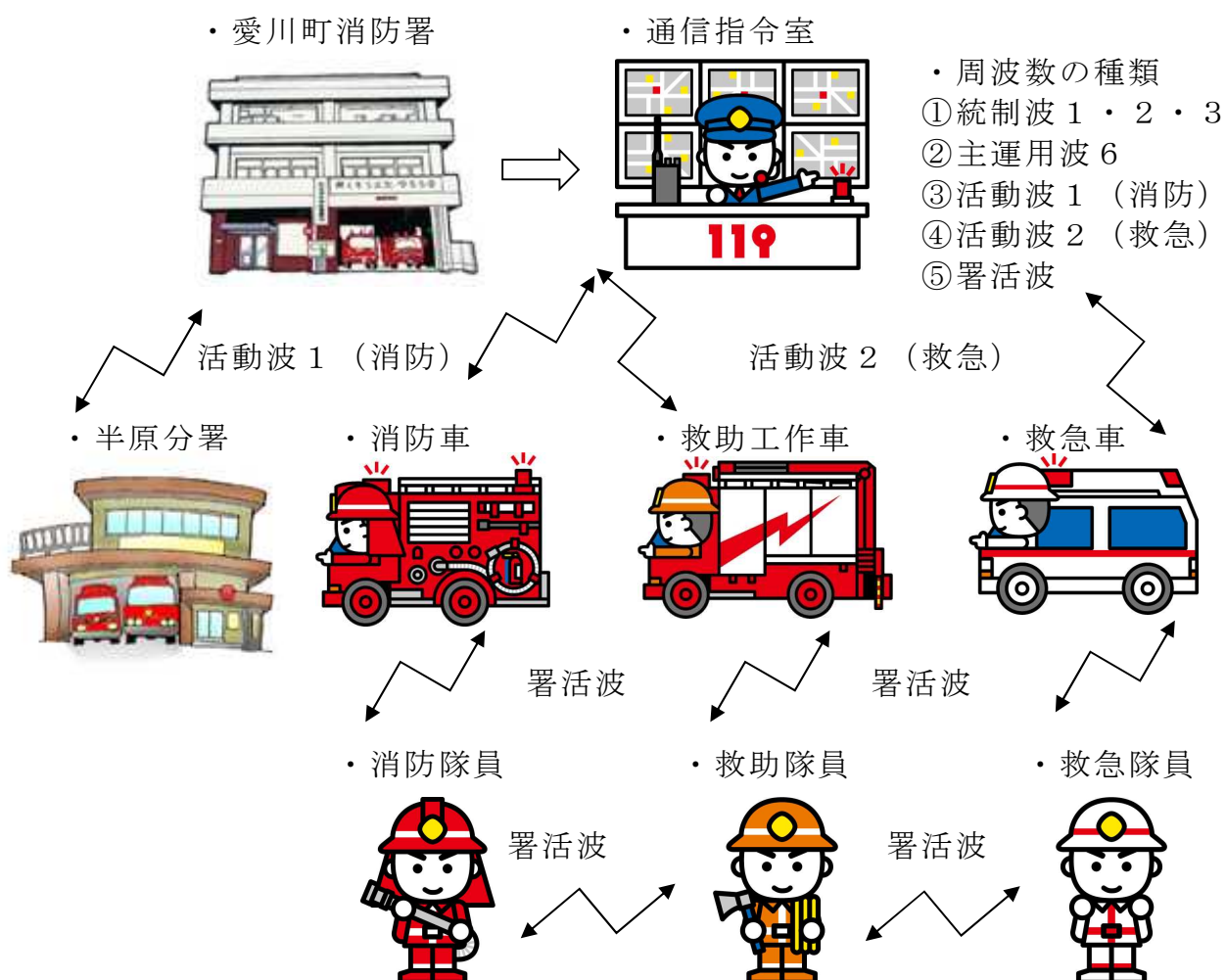
【統合型位置情報通知装置】

指令台と連動し、一般電話とIP固定電話、及び携帯電話から119番通報に係る位置情報を指令台に通知及び取得するシステムです。

5 4 消防無線系統図

消防無線のデジタル化

データ伝送による確実かつ効率的な消防救急活動の支援、無線チャンネルの増加、消防救急活動の高度化及び通信業務の秘匿性向上による搬送患者や災害現場における個人情報保護等の観点及び電波の有効利用を目的として、従来のアナログ方式による150MHz帯周波数の無線機を総務省告示に従って平成27年6月からは260MHz帯のデジタル方式に移行して運用しています。



区 分	車載型	携帯型	署活系	合 計
本 部	5	1	2	8
本 署	5	6	16	27
分 署	4	3	7	14
合 計	14	10	25	49

5 5 消防無線機一覧表（デジタル無線局）

No.	無線局名	種 別	出 力	配置車両等
1	しょうぼうあいかわ	基 地 局	5 W	通信指令室
2	はんばら 1	陸上移動局	5 W	分署事務室
3	はんばらぼんぷ 1	陸上移動局	5 W	分署消防ポンプ車
4	あいかわかがく 1	陸上移動局	5 W	化学消防ポンプ車
5	あいかわきゅうじょ 1	陸上移動局	5 W	救助工作車
6	あいかわしき 1	陸上移動局	5 W	消防指揮車
7	あいかわほんぶ 1	陸上移動局	5 W	消防指揮車
8	あいかわぼんぷ 1	陸上移動局	5 W	本署消防ポンプ車
9	あいかわしれい 1	陸上移動局	5 W	消防指令車
10	あいかわこうほう 1	陸上移動局	5 W	消防広報車
11	あいかわせきさい 1	陸上移動局	5 W	予備消防車
12	あいかわはんそう 1	陸上移動局	5 W	資機材搬送車
13	あいかわ 1	陸上移動局	2 W	消防指揮車
14	あいかわ 2	陸上移動局	2 W	化学消防ポンプ車
15	あいかわ 3	陸上移動局	2 W	救助工作車
16	あいかわ 4	陸上移動局	2 W	本署消防ポンプ車
17	あいかわ 5	陸上移動局	2 W	分署消防ポンプ車
18	あいかわ 6	陸上移動局	2 W	予備消防車
19	あいかわ 7	陸上移動局	2 W	本署高規格救急車
20	あいかわ 8	陸上移動局	2 W	分署高規格救急車
21	あいかわ 9	陸上移動局	2 W	予備救急車
22	あいかわ 1 0	陸上移動局	2 W	通信指令室
23	きゅうきゅうあいかわ	基 地 局	5 W	通信指令室
24	きゅうきゅうあいかわ 1	陸上移動局	5 W	本署高規格救急車
25	きゅうきゅうあいかわ 2	陸上移動局	5 W	予備救急車
26	きゅうきゅうはんばら 1	陸上移動局	5 W	分署高規格救急車

56 消防無線機一覧表（署活系無線機）

No.	無線局名	種 別	出 力	配置車両等
1	あいかわ101	陸上移動局	1 W	化学消防ポンプ車
2	あいかわ102	陸上移動局	1 W	化学消防ポンプ車
3	あいかわ103	陸上移動局	1 W	化学消防ポンプ車
4	あいかわ104	陸上移動局	1 W	化学消防ポンプ車
5	あいかわ105	陸上移動局	1 W	化学消防ポンプ車
6	あいかわ201	陸上移動局	1 W	救助工作車
7	あいかわ202	陸上移動局	1 W	救助工作車
8	あいかわ203	陸上移動局	1 W	救助工作車
9	あいかわ301	陸上移動局	1 W	本署消防ポンプ車
10	あいかわ302	陸上移動局	1 W	本署消防ポンプ車
11	あいかわ303	陸上移動局	1 W	本署消防ポンプ車
12	あいかわ401	陸上移動局	1 W	着装室
13	あいかわ402	陸上移動局	1 W	着装室
14	あいかわ501	陸上移動局	1 W	分署消防ポンプ車
15	あいかわ502	陸上移動局	1 W	分署消防ポンプ車
16	あいかわ503	陸上移動局	1 W	分署消防ポンプ車
17	あいかわ504	陸上移動局	1 W	分署消防ポンプ車
18	あいかわ601	陸上移動局	1 W	消防指揮車
19	あいかわ602	陸上移動局	1 W	消防指揮車
20	あいかわ701	陸上移動局	1 W	本署高規格救急車
21	あいかわ702	陸上移動局	1 W	本署高規格救急車
22	あいかわ703	陸上移動局	1 W	本署高規格救急車
23	あいかわ801	陸上移動局	1 W	分署高規格救急車
24	あいかわ802	陸上移動局	1 W	分署高規格救急車
25	あいかわ803	陸上移動局	1 W	分署高規格救急車

5 7 月別災害受付状況（携帯電話通報を含む）

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
火 災	0	0	1	2	0	2	0	0	0	1	1	0	7
救 急	221	160	185	187	176	158	191	242	181	212	180	214	2,307
救 助	4	4	3	4	6	6	5	2	4	7	3	4	52
小 計	225	164	189	193	182	166	196	244	185	220	184	218	2,366

5 8 月別災害通報等覚知件数状況

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
覚知件数	251	159	186	192	179	158	188	240	192	212	180	211	2,348
通報種別形態	固定電話	51	33	30	28	29	20	37	37	38	44	27	415
	携帯電話	96	64	83	89	68	74	79	103	90	86	86	1,001
	IP電話	64	33	42	40	48	43	44	62	37	46	43	563
	FAX119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加入電話	28	27	28	32	31	19	23	31	18	29	21	311
	その他	12	2	3	3	3	2	5	7	9	7	3	58

5 9 月別病院問い合わせ

区分/月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
加入電話	75	34	33	52	68	42	44	56	54	57	43	76	634
1 1 9 番	14	7	7	15	14	7	17	24	11	12	5	6	139
小 計	89	41	40	67	82	49	61	80	65	69	48	82	773

6 0 月別気象状況

区分/月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
気 温 (℃)		最高	14.0	19.3	21.1	25.3	30.5	31.4	33.3	35.1	35.2	30.5	23.3	19.8
		最低	-2.1	-2.5	-0.6	1.2	7.1	14.2	17.5	21.6	18.0	11.7	1.6	0.3
		平均	4.7	6.5	9.7	12.7	18.7	20.8	23.6	27.4	24.4	18.8	12.4	7.8
湿 度 (%)		最低	13.0	25.2	15.8	12.2	18.8	29.1	60.5	49.1	29.7	35.2	30.2	30.5
		平均	58.6	66.2	65.6	68.0	71.7	85.9	90.7	85.1	82.2	84.9	78.8	77.7
風 速 (m/s)		最高	16.9	20.2	20.4	19.8	25.7	15.9	16.5	24.4	34.2	24.9	20.0	17.3
		平均	2.4	2.5	2.9	3.1	3.2	3.0	2.4	3.0	2.5	2.9	2.4	2.1
雨 量 (mm)	本 署	一日最大	7.5	19.0	36.5	69.0	147.5	63.0	24.0	40.5	46.5	343.0	62.0	16.0
		月累計	7.5	28.0	112.5	135.5	294.0	222.0	183.0	96.0	124.5	622.5	116.5	61.5
	分 署	一日最大	12.5	19.0	40.5	62.5	188.0	92.0	29.5	47.0	77.5	454.5	76.5	20.0
		月累計	12.5	30.5	134.0	133.5	251.5	275.5	222.0	122.5	162.0	825.0	163.0	74.5
風 向		北西	北北西	北北西	南	南	南	南	南	北北西	北西	北西	北	

6 1 気象統計

(過去10年間)

区分／年別		22	23	24	25	26	27	28	29	30	元
気温 ℃	最高	36.4	37.5	34.8	36.8	36.6	36.2	36.7	34.8	37.1	35.2
	最低	-3.1	-4.4	-3.5	-4.3	-4.0	-4.1	-3.0	-3.0	-5.6	-2.5
	平均	15.1	14.9	14.5	15.3	15.2	15.4	15.5	14.9	16.0	15.7
湿度 %	最高	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.5	99.6	99.9	99.9	99.9
	最低	13.4	14.8	16.4	15.5	15.1	16.8	20.7	8.0	12.7	12.2
	平均	74.6	72.2	73.0	71.5	72.3	79.7	82.8	75.2	75.6	76.3
風速 m/s	瞬間最大	37.4	41.0	40.7	34.4	35.7	28.1	30.5	28.4	40.2	34.2
	平均	3.0	2.9	2.9	3.0	2.8	2.7	2.8	2.7	2.9	2.7
	風向	北西	北北西	北西	北北西	北西	北西	北西	北西	北西	北西
雨量 mm	時間最大	26.5	32.5	46.5	39.0	33.0	29.5	46.5	53.5	33.0	67.5
	日最大	95.0	174.5	124.0	179.0	194.0	183.0	132.5	151.5	83.5	343.0
	年積算	1838.0	1741.5	1752.5	1496.0	1763.0	1759.5	1631.0	1777.0	1619.5	2003.5

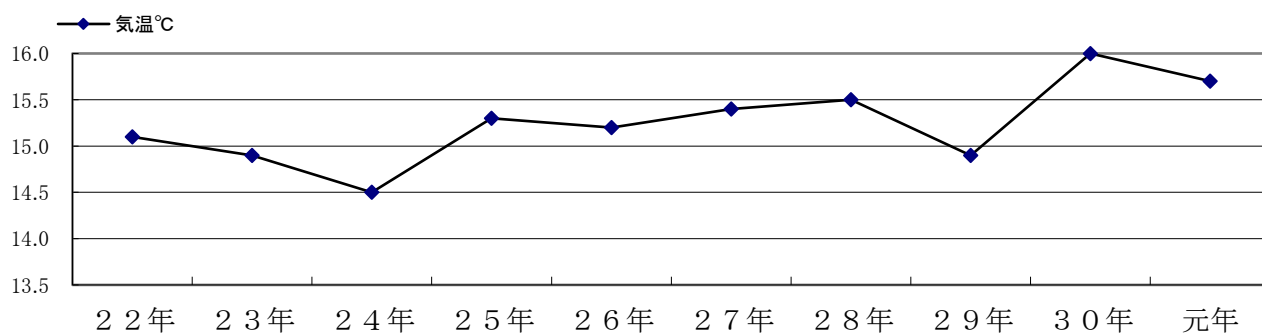
気象の観測地点

観測地点	愛川町消防本部	
観測期間	平成8年～16年	平成17年～
所在地	角田251-1	角田286-1
東経	139度19分31秒	139度19分24秒
北緯	35度31分32秒	35度31分48秒
標高	127m	

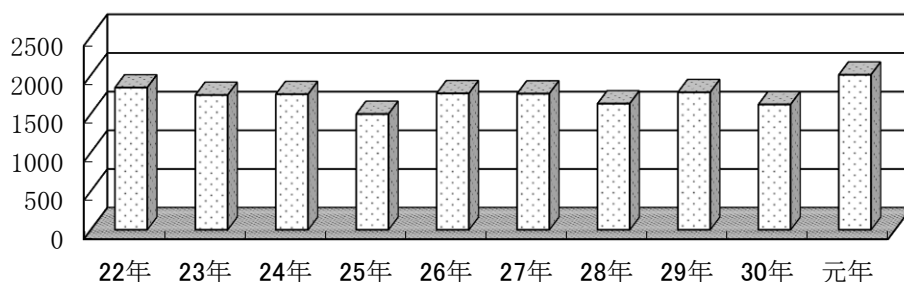
観測期間中の最高・最低記録(役場所在地計測)

観測項目	記録値	記録日等
気温 ℃	最高	38.6℃
	最低	-5.7℃
	年平均	15.25℃
雨量 mm	時間最大	67.5mm
	日最大	343.0mm
	月積算	622.5mm
	年積算	2167.5mm
風速 m/s	最高	41.2m/s
	年平均	2.84m/s
	風向	北西

平均気温推移



年間雨量推移



救 急 関 係



6 1 救急出場概要

令和元年中の出場件数は2,307件（前年比24件減）で、搬送人員は2,191人（前年比5人減）となりました。

救急出場件数は全国的に近年増加している傾向にあります。その社会背景には、65歳以上の高齢者（以下、「高齢者」という。）による搬送人員の増加があります。

愛川町では、平成26年における高齢者の搬送人員は48%でしたが、令和元年では、その割合が57%まで上昇したことから、今後も高齢者人口と比例して救急出場件数の増加が見込まれます。

また、熱中症による救急搬送が年々増加しているため、熱中症予防の広報活動を行うと共に、搬送人員の44%は軽症者であることから、救急車の適正利用についても啓発活動を実施しています。

種 別	令和元年	平成30年
出 場 件 数	2,307 件	2,331 件
一万人当りの出場件数	573.2 件	577.9 件
搬 送 件 数	2,172 件	2,180 件
一万人当りの搬送件数	539.7 件	540.5 件
不 搬 送 件 数	135 件	151 件
搬 送 人 員	2,191 人	2,196 人
ドクターヘリコプター 搬 送 件 数	28 件	35 件
	急病 20 件	急病 23 件
	転院搬送 1 件	交通事故 3 件
	一般負傷 4 件	転院搬送 4 件
	労働災害 3 件	一般負傷 2 件
		労働災害 3 件
1 日 の 平 均 出 場 件 数	6.3 件	6.4 件
1 日 の 平 均 搬 送 件 数	6.0 件	6.0 件
1 日 の 平 均 搬 送 人 員	6.0 人	6.0 人
応 援 出 場 件 数	7 件	16 件
	厚木市 5 件 相模原市 2 件	厚木市 12 件 相模原市 3 件
		清川村 1 件

6 2 事故種別出場件数

種別 年中	火災	自然 災害	水難 事故	交通 事故	労働 災害	運動 競技	一般 負傷	加害	自損 行為	急病	転院 搬送	その他	合計
平成30年	3	0	2	160	51	18	284	11	28	1,610	125	39	2,331
令和元年	4	0	2	153	47	16	290	9	27	1,577	128	54	2,307
増減	1	0	0	△7	△4	△2	6	△2	△1	△33	3	15	△24

6 3 交通事故の状況

※道路名は正式名称でないものも含まれます。

路 線 名	出場 件数	搬送 人員	傷病程度別			
			死亡	重症	中等症	軽症
国 道 412 号 線	13	15	0	2	3	10
相 模 原 愛 川 線	17	18	0	2	4	12
中 野 厚 木 線	7	10	0	0	5	5
相 模 原 大 磯 線	27	27	0	1	8	18
大 井 上 依 知 線	3	2	0	0	1	1
水 道 路	9	9	1	1	2	5
三 増 田 代 線	3	3	0	0	0	3
工 業 団 地 箕 輪 線	4	4	0	0	1	3
工 業 団 地 内	27	27	0	1	11	15
一 本 松 棚 沢 線	1	2	0	0	2	0
桜 台 小 沢 線	0	0	0	0	0	0
宮 ヶ 瀬 ・ 愛 川 線	0	0	0	0	0	0
町 道 幣 山 ・ 下 平 線	0	0	0	0	0	0
厚 木 市 の 道 路	1	0	0	0	0	0
相 模 原 市 の 道 路	0	0	0	0	0	0
清 川 村 の 道 路	0	0	0	0	0	0
そ の 他 ・ 道 路 以 外 の 場 所	41	42	0	0	11	31
合 計	153	159	1	7	48	103

6 4 月別出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
件数	221	160	185	187	176	158	191	242	181	212	180	214	2,307

6 5 月別搬送人員

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
人数	211	153	176	172	168	154	186	230	173	195	172	201	2,191

6 6 時間別出場件数

時間 種別	0～ 2	2～ 4	4～ 6	6～ 8	8～ 10	10～ 12	12～ 14	14～ 16	16～ 18	18～ 20	20～ 22	22～ 24	計
火 災	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4
自 然 災 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水 難 事 故	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
交 通 事 故	4	4	2	15	20	13	12	20	27	13	15	8	153
労 働 災 害	1	1	0	4	2	8	6	8	9	4	1	3	47
運 動 競 技	0	0	0	0	1	7	2	5	0	0	1	0	16
一 般 負 傷	9	12	10	24	29	35	33	40	31	25	27	15	290
加 害	0	0	1	0	3	0	1	0	0	1	3	0	9
自 損 行 為	0	2	0	2	6	2	3	4	3	3	1	1	27
急 病	93	62	61	121	207	150	149	159	152	155	135	133	1,577
転 院 搬 送	3	0	0	0	17	40	20	15	23	4	6	0	128
そ の 他	4	3	4	4	8	5	4	10	4	4	3	1	54
合 計	115	84	78	171	293	260	230	262	250	210	192	162	2,307

6 7 傷病程度・事故種別搬送人員

	火 災	自 然 災 害	水 難 事 故	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	性別		合 計
												男性	女性	
死亡	0	0	0	1	0	0	3	0	1	35	0	22	18	40
重症	0	0	1	7	1	0	11	0	1	92	32	91	54	145
中等症	1	0	0	48	25	8	107	1	8	745	89	566	466	1,032
軽症	1	0	1	103	21	8	157	9	8	660	6	525	449	974
合計	2	0	2	159	47	16	278	10	18	1,532	127	1,204	987	2,191

6 8 ドクターヘリコプター搬送概要

件 数

事故種別	労働災害	一般負傷	急病	転院搬送	合計
件 数	3	4	20	1	28

傷病程度別搬送人員

傷病程度	軽症	中等症	重症	死亡	合計
人 員	0	10	14	4	28

6 9 過去10年間の出場件数の推移

年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
件数	1,836	2,031	1,927	2,085	2,089	1,990	2,068	2,093	2,331	2,307

70 傷病程度別年齢区分別搬送人員

傷病程度	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計
死亡	0	0	0	8	32	40
重症	0	1	5	42	97	145
中等症	0	32	35	309	656	1032
軽症	0	76	68	370	460	974
合計	0	109	108	729	1,245	2,191

71 救急隊員の行った応急処置件数

事故種別	区分	応急処置対象人員	合計	応急処置										特定行為							
				小計	止血	固定	心肺蘇生	酸素吸入	気道確保	血圧測定	血中酸素飽和度測定	心電図	除細動	血糖測定	その他	小計	気管挿管（ビデオ喉頭鏡含む）	心肺停止への輸液	アドレナリン投与	ショックへの輸液	ブドウ糖液投与
合計		2, 191	9, 383	9, 273	60	170	47	341	53	2, 140	2, 150	1, 573	6	12	2, 721	110	7	41	41	15	6
急病		1, 532	6, 552	6, 461	9	3	39	265	44	1, 497	1, 500	1, 254	5	12	1, 833	91	4	33	33	15	6
交通		159	708	706	9	88	1	16	1	157	157	67	0	0	210	2	0	1	1	0	0
一般負傷		278	1, 129	1, 120	32	50	4	15	4	269	274	109	0	0	363	9	1	4	4	0	0
その他		222	959	951	10	29	3	45	1	217	219	143	1	0	283	8	2	3	3	0	0

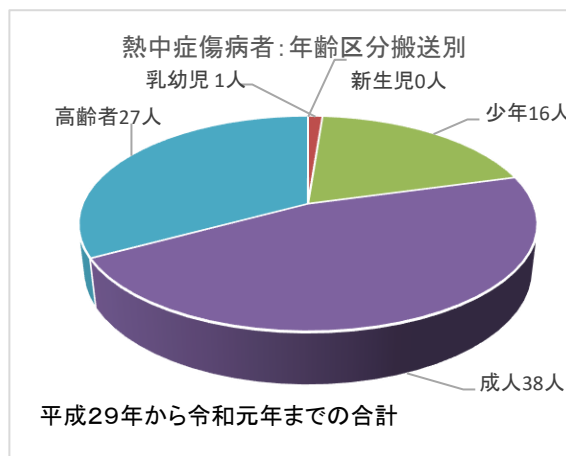
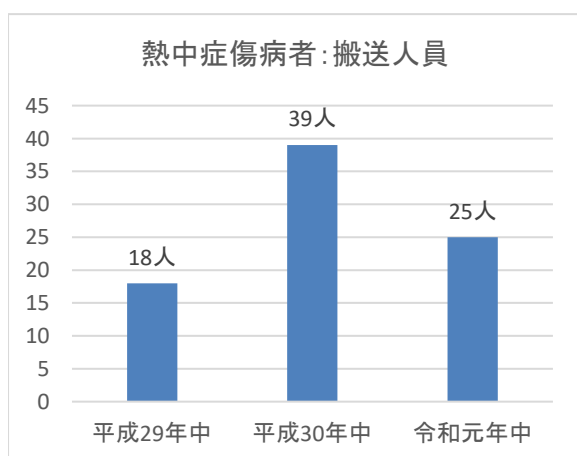
※ 平成26年7月から登録を受けた救急救命士による血糖測定、ブドウ糖液投与、心肺停止前の輸液が開始されました。

72 住民の方が行った応急手当件数

事故種別	気道確保	人工呼吸	胸骨圧迫	除細動	止血	保温・冷却	体位管理・移動	その他	合計
急病	3	0	31	0	9	14	52	947	1,056
交通	0	0	0	0	7	1	3	98	109
一般負傷	2	0	5	0	50	7	1	149	214
その他	0	0	2	0	25	9	3	60	99
合計	5	0	38	0	91	31	59	1,254	1,478

7 3 熱中症傷病者搬送人員

		令和元年中	平成30年中	平成29年中
年齢区分	新生児	0	0	0
	乳幼児	0	0	1
	少年	4	8	4
	成人	9	22	7
	高齢者	12	9	6
	合計	25	39	18
性別	男性	18	31	13
	女性	7	8	5
	合計	25	39	18
程度	軽症	20	29	12
	中等症	5	10	5
	重症	0	0	1
	死亡	0	0	0
	合計	25	39	18
発生場所	住居	4	7	2
	仕事場	8	9	4
	教育機関	1	0	1
	公衆出入場所	5	19	8
	道路	3	1	1
	その他	4	3	2
	合計	25	39	18



7 4 救急業務の高度化とメディカルコントロール体制

消防機関と医療機関の緊密な連携により、救急現場から医療機関へ搬送されるまでの間において、救急救命士を含む救急隊員が行う応急処置等の質を向上させるため、愛川町消防本部は、湘南・県央・県西地区の14消防本部を統轄する湘南地区メディカルコントロール協議会に加盟し、活動しています。

主な活動内容は救急現場、搬送途上において医師による救急救命士への指示及び救急隊員への指導・助言体制、救急活動の医学的観点からの事後検証体制の充実、救急救命士等の病院実習及び各種研修会の再教育体制などを行っています。

救急救命士の教育（病院実習）状況
令和元年度

区分	
救急救命士の再教育	9
気管挿管病院実習（再教育含む）	1
就業前病院実習（薬剤含む）	1
ビデオ喉頭鏡実習	1

事後検証実施状況

一次検証	件数	二次検証	件数
	2,307		54

指導・助言実施件数

件数
66

※一次検証：指導的立場の救急隊員が、救急活動における部隊活動や救急処置について検証を行い、より良い救急活動を実施するために行います。

※二次検証：一次検証の中から心肺停止症例や重症外傷症例等について、医師が医学的観点から救急活動の検証を行います。

7 5 応急手当普及啓発活動

心肺停止の傷病者を救命するためには、目撃者による心肺蘇生法が必要です。ひとりでも多くの人に心肺蘇生法を広めるため、救命講習を開催しています。胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸、AED（自動体外式除細動器）の操作方法を中心に学習します。現在の修了者は2万人を超えており、人口比の約50%が救命講習を修了しています。

区分	令和元年中					総受講者数					
	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	上級	一般	普通	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	上級	一般
新規	445	176	34	19	109	8,082	9,629	2,364	249	398	1,988
再講習	57	42	11	1		1,288	1,174	481	100	34	

□普通救命講習Ⅰ【3時間】心肺蘇生法、AED操作方法

□普通救命講習Ⅱ【4時間】心肺蘇生法、AED操作方法（AED設置施設職員対象）

□普通救命講習Ⅲ【3時間】心肺蘇生法（新生児・乳児・小児）、AED操作方法

□上級救命講習【8時間】心肺蘇生法、観察方法、搬送方法等

□一般講習【3時間未満】普通救命講習以外の応急手当に関する講習会

7 6 年別救命講習修了者数

講習別 年	講習回数		新規修了者数					合計
	上級	普通救命	上級	普通	普通Ⅰ	普通Ⅱ	普通Ⅲ	
平成 5年	－	1	－	8	－	－	－	8
平成 6年	2	4	37	134	－	－	－	171
平成 7年	1	7	29	148	－	－	－	177
平成 8年	1	6	7	149	－	－	－	156
平成 9年	－	16	－	328	－	－	－	328
平成10年	－	19	－	432	－	－	－	432
平成11年	－	32	－	814	－	－	－	814
平成12年	－	39	－	743	－	－	－	743
平成13年	－	52	－	1469	－	－	－	1, 469
平成14年	－	37	－	1139	－	－	－	1, 139
平成15年	1	53	8	1070	－	－	－	1, 078
平成16年	2	56	18	1121	－	－	－	1, 139
平成17年	1	40	4	527	469	31	－	1, 031
平成18年	－	54	－	－	953	239	－	1, 192
平成19年	1	51	8	－	1232	232	－	1, 472
平成20年	－	31	－	－	685	72	－	757
平成21年	－	36	－	－	677	102	－	779
平成22年	1	36	20	－	634	104	－	758
平成23年	3	44	31	－	630	137	－	798
平成24年	6	36	13	－	489	102	－	604
平成25年	－	51	－	－	553	287	125	965
平成26年	2	56	17	－	791	284	38	1, 130
平成27年	6	46	56	－	582	222	2	862
平成28年	3	33	30	－	437	98	14	579
平成29年	4	45	34	－	593	121	18	766
平成30年	5	43	67	－	459	157	18	701
令和元年	2	42	19	－	445	176	34	674
合 計	41	966	398	8, 082	9, 629	2, 364	249	20, 722

7 7 町内公共施設自動体外式除細動器（A E D）設置状況

心肺停止傷病者の救命には、心肺蘇生法だけでなくA E Dを使用することが重要です。愛川町では、救命率向上を目的として町の公共施設30カ所にA E Dを設置しています。

また、町民が行うイベント等の貸し出し用として3台、消防本部と半原分署で管理しています。

No.	施設名称	設置年月	No.	施設名称	設置年月
1	第1号公園体育館	平成17年6月	16	田代保育園	平成19年5月
2	中津公民館	平成17年6月	17	高峰保育園	平成19年5月
3	三増公園	平成17年6月	18	春日台保育園	平成19年5月
4	田代運動公園	平成17年6月	19	中津保育園	平成19年5月
5	半原公民館	平成17年6月	20	中津南保育園	平成19年5月
6	中津小学校	平成18年6月	21	半原老人福祉センター	平成19年5月
7	中津第二小学校	平成18年6月	22	愛川聖苑	平成19年5月
8	菅原小学校	平成18年6月	23	愛川町役場本庁舎1階	平成21年5月
9	高峰小学校	平成18年6月	24	愛川郷土資料館	平成21年5月
10	田代小学校	平成18年6月	25	愛川町消防本部 (貸出し用2台)	平成24年5月
11	半原小学校	平成18年6月	26	愛川町健康プラザ	平成26年5月
12	愛川東中学校	平成18年6月	27	農村環境改善センター	平成26年5月
13	愛川中原中学校	平成18年6月	28	愛川町文化会館	平成29年10月
14	愛川中学校	平成18年6月	29	美化プラント	平成30年4月
15	半原保育園	平成19年5月	30	消防署半原分署 (貸出し用)	平成31年4月

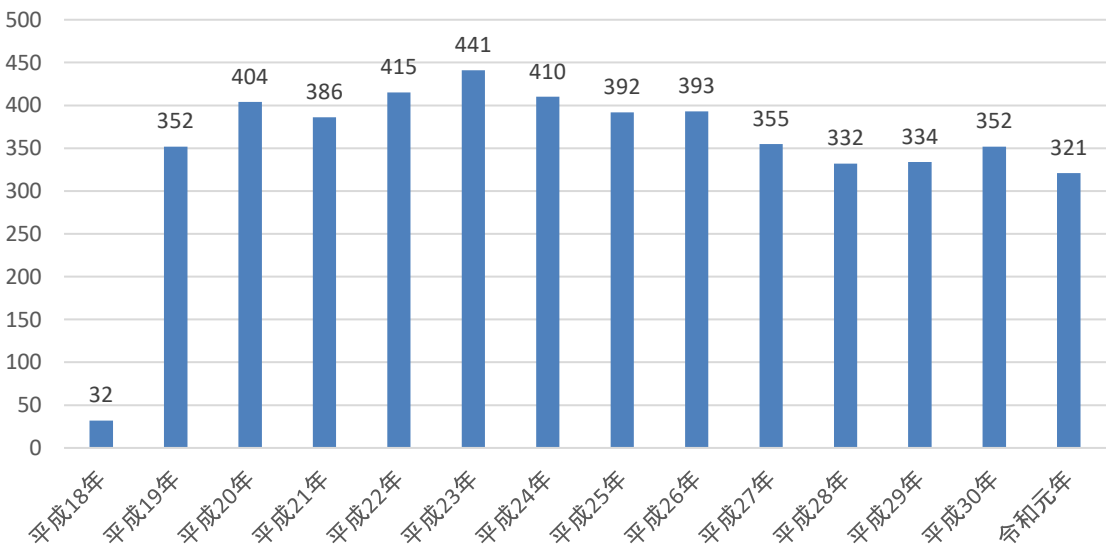
78 小学生BLS授業

小学生BLS授業は平成18年に試行的授業を行い、平成19年から本格的に町立小学校の6年生を対象に開催しています。BLSとは、Basic-Life-Supportの略語で「その場に居合わせた人による一次救命処置」と言います。児童はこの授業を通じて命の大切さを学びます。授業は視聴覚教材を取り入れ、理解度の向上を図っています。また、校内で心肺停止傷病者が発生した想定でロールプレイを実施し、学習効果の確認を行っています。



受講者数

合計 4,919人



79 普通救命講習Ⅲ

普通救命講習Ⅲは、保育士等を対象に平成25年から実施しています。新生児・乳児・小児の心肺蘇生法、AED操作方法などを学習することで、子供の成長段階に合わせた救命方法を習得することを目的としています。



普通救命講習Ⅲ 受講者数（再講習者含む）

年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	合計
受講者数	125	38	7	22	74	38	45	349

消 防 団 関 係



令和元年度更新の小型動力ポンプ付積載車
(第1分団第2部・第1分団第3部)

8 1 消防団の概要

消防団員の確保対策の一環として平成30年4月1日に機能別消防団を創設しました。

機能別消防団は、災害出動区域、活動時間を限定し、工業団地内で発生した建物火災及び地震等による大規模災害において活動を行います。

組織の構成		管 轄	団員数
団長、副団長、正副分団長			9 (9)
第1分団 (愛川地区)	第1部	川北区	9 (12)
	第2部	宮本区	10 (13)
	第3部	原臼区	12 (13)
	第4部	両向区	6 (13)
	第5部	細野区	7 (14)
	第6部	田代区	11 (14)
第2分団 (高峰地区)	第1部	三増区	14 (15)
	第2部	小沢区	13 (14)
	第3部	箕輪区	11 (12)
	第4部	角田区	12 (12)
第3分団 (中津地区)	第1部	上熊坂区、春日台区	13 (15)
	第2部	熊坂区、下谷八菅山区、 内陸工業団地の一部	12 (15)
	第3部	二井坂区、桜台区、桜台団地区、 内陸工業団地の一部	15 (15)
	第4部	半縄区、坂本区、 内陸工業団地の一部	15 (15)
	第5部	大塚区、六倉区、 内陸工業団地の一部	10 (15)
機能別消防団		内陸工業団地	9 (10)
		大塚下工業団地	5 (5)
合 計			193 (231)

() 内の数値は定員数

8 2 消防団のあゆみ

昭和31年	9月	町村合併により中津村消防団と合併し、15分団の「愛川町消防団」となる。 初代消防団長 河内 保 氏 就任 ○組織 団長以下575名（15分団） ○設備 消防ポンプ自動車 3台、三輪ポンプ自動車 2台 手引動力ポンプ7台 可搬動力ポンプ9台
昭和32年	7月	愛川町消防団員等公務災害補償条例制定
昭和34年	2月	日本消防協会から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
	4月	2代消防団長 大貫 弘二 氏 就任 ○組織 団長以下464名（15分団）
昭和37年	3月	自治省消防庁から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
昭和38年	4月	3代消防団長 井上 包雄 氏 就任 ○組織 団長以下400名（15分団）
昭和39年	6月	消防団員勤続15年以上の退職者に対する退職報償金条例制定 愛川町非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例制定
昭和40年	4月	4代消防団長 小島 利徳 氏 就任 ○組織 団長以下400名（15分団） 愛川町消防団員等公務災害補償条例の全部を改正 愛川町消防操法大会開催
昭和41年	3月	愛川町消防団員の定員任免、給与、服務等に関する条例制定
昭和42年	4月	消防団長 小島 利徳 氏 再任 ○組織 団長以下355名（15分団）
昭和44年	4月	5代消防団長 梅 沢 要 氏 就任 ○組織 団長以下355名（15分団）
	8月	愛川町消防団員水泳大会開催
昭和46年	4月	6代消防団長 小野沢 芳治 氏 就任 ○組織 団長以下355名（15分団）
昭和48年	4月	7代消防団長 山田 佐七 氏 就任 ○組織 団長以下355名（15分団）
昭和50年	4月	8代消防団長 馬場 光義 氏 就任 ○組織 団長以下355名（15分団） ○設備 消防ポンプ自動車 16台 小型動力ポンプ 6台 専用積載車 3台
	8月	第25回神奈川県消防操法大会に第10分団が出場 消防ポンプ車の部で最優秀賞を受賞
昭和52年	4月	9代消防団長 斉藤 信男 氏 就任 ○組織 団長以下290名（3分団15部）
昭和54年	4月	10代消防団長 熊坂 忠雄 氏 就任 ○組織 団長以下290名（3分団15部）
昭和56年	4月	11代消防団長 中村 文夫 氏 就任 ○組織 団長以下246名（3分団15部）
昭和60年	4月	12代消防団長 山口 一男 氏 就任 ○組織 団長以下246名（3分団15部）
昭和62年	4月	13代消防団長 大矢 邦明 氏 就任 ○組織 団長以下246名（3分団15部）
平成 2年	7月	第37回神奈川県消防操法大会へ第2分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて最優秀賞を受賞
平成 4年	4月	14代消防団長 馬場 紀光 氏 就任 ○組織 団長以下246名（3分団15部）
	6月	消防団水防訓練を実施
	7月	第38回神奈川県消防操法大会へ3分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車3台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第2部 第3分団第3部 第3分団第5部
平成 5年	3月	小型動力ポンプ付積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第3部

平成 6 年 7 月	第 3 9 回神奈川県消防操法大会へ第 1 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞 小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 5 部 第 2 分団第 4 部
平成 7 年 1 2 月	小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 6 部 第 3 分団第 1 部
平成 8 年 3 月	馬場消防団長が消防庁長官表彰（永年勤続）を受賞
7 月	第 4 0 回神奈川県消防操法大会へ 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
8 月	小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 1 部 第 1 分団第 4 部
平成 9 年 3 月	消防団、消防署合同による同時多発火災を想定した火災防御訓練を実施 小型動力ポンプ付積載車 2 台を更新、消防団に配属 配属部 第 2 分団第 1 部 第 3 分団第 2 部
5 月	元消防団長山田 佐七氏が春の叙勲で勲六等瑞宝章を賜る
平成 1 0 年 3 月	消防団器具舎（第 2 分団第 1 部三増地区）竣工
7 月	第 4 1 回神奈川県消防操法大会へ第 3 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
1 2 月	小型動力ポンプ付積載車 3 台を更新、消防団に配属 配属部 第 1 分団第 2 部 第 1 分団第 3 部 第 3 分団第 4 部
平成 1 1 年 8 月	愛川町消防団の組織・活動のありかた等検討会報告
平成 1 2 年 3 月	消防団の定数改正
4 月	1 5 代消防団長 熊坂 康治 氏 就任 ○組 織 団長以下 2 3 1 名（3 分団 1 5 部）
7 月	第 4 2 回神奈川県消防操法大会へ消防団選抜で出場 小型動力ポンプの部に於いて最優秀賞を受賞
1 0 月	第 1 7 回全国消防操法大会へ出場 小型動力ポンプの部に於いて 6 位に入賞
平成 1 3 年 3 月	熊坂団長が（財）日本消防協会会長表彰（功績章）を受賞 愛川町消防団が（財）県消防協会会長表彰（表彰旗）を受賞 消防団器具舎（第 1 分団第 1 部）竣工
平成 1 4 年 3 月	消防団器具舎（第 3 分団第 3 部）竣工 消防団器具舎（第 3 分団第 4 部）竣工 熊坂団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
4 月	熊坂消防団長が神奈川県消防協会厚木市愛甲郡支部長に就任
7 月	第 4 3 回神奈川県消防操法大会へ第 1 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
平成 1 5 年 3 月	消防団器具舎（第 1 分団 3 部）竣工 宮木副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
平成 1 6 年 3 月	熊坂団長が日本消防協会会長表彰（永年勤続章）を受賞 柏木副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞
7 月	第 4 4 回神奈川県消防操法大会へ第 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優秀賞を受賞
平成 1 7 年 3 月	沼田第 2 分団長が日本消防協会会長表彰（精績章）を受賞
1 0 月	小型動力ポンプ積載車 3 台を更新、消防団に配属 配属部 第 2 分団第 2 部 第 3 分団第 3 部 第 3 分団第 5 部
平成 1 8 年 3 月	柏木副団長が日本消防協会会長表彰（永年勤続章）を受賞 小川副団長が消防庁長官表彰（永年勤続功労章）を受賞 第 2 分団第 3 部器具舎 竣工
4 月	第 1 6 代消防団長 柏木 彰 氏 就任
7 月	第 4 5 回神奈川県消防操法大会へ第 2 分団が出場 小型動力ポンプの部に於いて優良賞を受賞

平成18年10月	小型動力ポンプ積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第3部
12月	危険予知訓練（S-KYT）を実施
平成19年3月	柏木団長が日本消防協会会長表彰（功績章）を受賞
7月	消防団教育訓練（機関科）を実施
10月	小型動力ポンプ積載車2台を更新、消防団へ配属 配属部 第1分団第5部 第2分団第4部
	消防団員夏活動服を新基準のものに一斉更新
12月	消防団安全管理セミナーを実施
平成20年1月	消防団器具舎（第1分団6部）竣工
2月	第3分団第1部器具舎外壁、屋根改修工事完成
	鈴木副団長が日本消防協会会長表彰（精績章）を受賞
5月	消防団基礎教育課程（新入団員研修）を実施
7月	第46回神奈川県消防操法大会に第3分団が出場
	小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
10月	小型動力ポンプ積載車2台を更新、消防団へ配属 配属部 第1分団第6部 第3分団第1部
平成21年5月	消防団教育課程（Ⅰ・Ⅱ課程）を実施
平成22年1月	消防団器具舎（第1分団2部）竣工
3月	小島第1分団長が日本消防協会会長表彰（精績章）を受賞
5月	消防団基礎教育課程（新入団員研修）を実施
7月	第47回神奈川県消防操法大会に第1分団が出場
	小型動力ポンプの部で優秀賞を受賞
11月	危険予知訓練（S-KYT）を実施
平成23年3月	小川副団長が日本消防協会会長表彰（永年勤続章）を受賞
5月	消防団教育課程（Ⅲ課程）を実施
6月	地震対策教育課程・水防研修会を実施
6月	制服支給基準を部長以上に変更
10月	部長以上研修を実施「放射能についての知識と対処法」
平成24年2月	日本消防協会 特別表彰「まとい」を受章 鈴木第3分団長が日本消防協会会長表彰（精績章）を受賞
3月	消防団器具舎（第3分団第1部）竣工
	管轄区域見直しによる消防団器具舎移転（第3分団第2部）
4月	第17代消防団長 小川 成人 氏 就任
5月	消防団基礎教育課程（新入団員研修）を実施
7月	第48回神奈川県消防操法大会に第2分団が出場
	小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
8月	デジタルトランシーバを各部1台・各分団長に配備（計18台）
11月	愛川町消防団員確保対策検討委員会を開催（延べ4回）
12月	編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備（服制基準見直しに伴う）
平成25年2月	第65回日本消防協会定例表彰において、小川団長が功績章を受章
5月	消防団員基礎教育Ⅰ・Ⅱ課程を実施（35名出席）
6月	地震対策教育課程・水防研修会を実施（31名出席）
7月	機関科課程を実施（32名出席）
9月	消防団員家族慰安会を開催「山本譲二歌謡ショー」を開催
12月	消防団活動に係るアンケート実施（213名対象：199名回答：回収率93.4%）
	編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備
平成26年2月	鈴木副団長が日本消防協会会長表彰「精績章」を受章（28日ニッショーホール）
3月	愛川町消防団・愛川町消防本部が消防庁長官表彰「竿頭綬」を受章（3月5日ニッショーホール）
4月	第18代消防団長 鈴木 慎三 氏 就任
	○愛川町消防団支援隊発足（発足時21名、初代隊長 馬場 紀光 氏）
7月	第49回神奈川県消防操法大会に第3分団が出場
	小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
11月	危険予知訓練（S-KYT）を実施
12月	編上ゴム長靴を消防団各部に3足合計45足を配備
平成27年3月	鈴木団長が日本消防協会会長表彰（功績章）を受賞
5月	消防団員基礎教育Ⅰ・Ⅱ課程を実施（46名出席）
7月～9月	応急手当普及員講習会を受講（3回受講：計39名）
10月	あいかわ消防フェスタにおいて、実行委員会を結成し消防団員確保のPR活動を実施

平成27年11月	新型防火衣を部長以上に配備（計24着） 消防団員研修を開催（講師：消防団員確保アドバイザー森山氏）
12月	編上げゴム長靴を団幹部に配備（計9足）
平成28年7月	新型防火衣を各部4着配備（計60着） 耐切創性手袋を全団員に配備
	第50回神奈川県消防操法大会に第1分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
12月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第1分団第1部 第1分団第4部
平成29年5月	元消防団長 馬場 紀光 氏が平成29年春の叙勲（瑞宝単光章）を受章
9月	消防団員技術発表会を開催
11月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第2分団第1部 第3分団第2部
平成30年3月	救命胴衣を各部3着配備（計45着） 日本消防協会から全国優良消防団として表彰され表彰旗を授与
4月	○愛川町消防団機能別消防団を発足 内陸工業団地協同組合（定員10名 実員8名） 大塚下団地共栄会（定員5名 実員5名）
	消防団基礎教育課程（新入団員研修）を実施
7月	第51回神奈川県消防操法大会に第2分団が出場 小型動力ポンプの部で優良賞を受賞
8月	救命胴衣を各部2着追加配備（各部5着計75着）
11月	小型動力ポンプ付積載車1台を更新、消防団に配属 配属部 第3分団第4部
平成31年3月	消防団器具舎（第3分団第2部）竣工
令和元年7月	愛川町消防団発足以来、初の女性消防団員が入団（3名）
8月	トランシーバを3台及び防塵メガネ30個を配備
9月	消防団員技術発表会を開催
11月	小型動力ポンプ付積載車2台を更新、消防団に配属 配属部 第1分団第2部 第1分団第3部
令和2年3月	鈴木団長が消防庁長官表彰（功労章及び永年勤続功労章）を受賞
令和2年4月	第19代消防団長 小島 一彦 氏 就任

8 3 消防団員報酬額

(単位：円)

階 級	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
年 額	340,000	214,000	136,000	128,000	119,000	73,000	64,000

8 4 消防団員出動状況

平成31年1月1日～令和元年12月31日

合 計		火 災		風水害		訓 練		警 戒		管外応援		捜 索	
回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人	回	人
28	1,732	4	127	1	71	11	553	8	955	4	26	0	0

8 5 消防団員出動手当

(単位：円)

出動区分	火 災	災 害	訓 練	警 戒
支給額（1回につき）	2,100	2,100	1,400	1,400

8 6 消防団員在職年数

(単位：人)

合計	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
(実員)							
193	73	42	49	18	10	1	0

8 7 消防団員退職報償金

(単位：千円)

階級	年 数	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
団 長		239	344	459	594	779	979
副 団 長		229	329	429	534	709	909
分 団 長		219	318	413	513	624	809
副 分 団 長		214	303	388	478	624	809
部 長 ・ 班 長		204	283	358	438	564	734
団 員		200	264	334	409	519	689

8 8 消防団員の定員・実員・階級別年齢状況

(単位：人)

	合 計	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	副 部 長	班 長	団 員	機 能 別 消 防 団
定 員	231	1	2	3	3	15	15	63	114	15
実 員	193	1	2	3	3	15	15	59	81	14
20歳未満	0									
20～24	11						1		9	1
25～29	26							5	19	2
30～34	46					2	5	18	19	2
35～39	62					9	5	26	20	2
40～44	24		1		3	4	3	5	8	
45～49	18		1	3			1	4	5	4
50歳以上	6	1						1	1	3
平均年齢	35.6	51.0	44.5	47.7	40.7	37.3	36.6	35.9	32.9	41.5

8 9 消防団員の勤務先状況

勤 務 先 の 状 況		人 数 (人)	割 合 (%)
団 員 総 数		193	100.0
町 内 121 人 62.7 %	自 営 業 (家 族 従 業 者 ・ 役 員 含 む)	22	11.4
	町 役 場 職 員	35	18.1
	町 内 一 般 企 業	38	19.7
	内 陸 工 業 団 地	16	8.3
	学 生	2	1.0
	そ の 他	8	4.1
町 外 72 人 37.3 %	厚 木 市	26	13.5
	相 模 原 市	22	11.4
	海 老 名 市	5	2.6
	そ の 他	19	9.8

職業構成、就業形態		人 数 (人)	割 合 (%)
団 員 総 数		193	100.0
職業構成	国 家 公 務 員	0	0.0
	地 方 公 務 員	35	18.1
	特 殊 法 人 等	10	5.2
	そ の 他	148	76.7
就業形態	被 用 者	161	83.4
	自 営 業	20	10.4
	家 族 従 業 者	3	1.6
	そ の 他	9	4.6

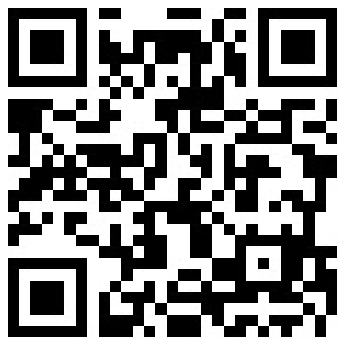
90 消防団現有車両

		種 別	型 式	購入年月	総排気量 (CC)	ポンプ			車 両 番 号
						社 名	級 別	型 式	
第1分団	第1部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H28. 11	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 7 2 9
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第2部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	R1. 10	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 3 6 9 1
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第3部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	R1. 10	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 3 6 9 2
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
第2分団	第4部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H28. 11	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 7 3 0
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第5部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H19. 10	2,977	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 3 9 3 6
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				
	第6部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H20. 10	2,977	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 4 7 9 7
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
第3分団	第1部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H29. 11	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 1 7 0 4
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第2部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 1
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				
	第3部	積 載 車	三菱 PA-FD70BB	H18. 9	2,977	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 2 8 8 2
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				
第3分団	第4部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H19. 10	2,977	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 3 9 3 7
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				
	第1部	積 載 車	三菱 PDG-FD70B	H20. 10	2,977	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 4 7 9 8
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第2部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H29. 11	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 1 7 0 5
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
第3分団	第3部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 2
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				
	第4部	積 載 車	トヨタ LDF-KDY281	H30. 10	2,980	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 せ 2 6 9 4
		小型動力ポンプ	トハツ VF53AS		526				
	第5部	積 載 車	ニッサン KR-AHS69A	H17. 10	3,050	トハツ	B-3	片吸込 1段タービン	相模 800 す 1 6 3 3
		小型動力ポンプ	トハツ vc62PRO		617				

9 1 消防団器具舎

部 名	住 所	延べ床面積	構 造	建設年月
		(階別面積)		
第 1 分団第 1 部	半原 6 3 5 5 - 1	7 5 . 7 0 m ²	軽量鉄骨造	平成 1 3 年 3 月
		(1F 3 7 . 8 5 2F 3 7 . 8 5)		
第 1 分団第 2 部	半原 4 4 6 9	7 8 . 0 0 m ²	鉄骨造	平成 2 2 年 1 月
		(1F 3 9 . 0 0 2F 3 9 . 0 0)		
第 1 分団第 3 部	半原 2 3 1 2 - 1	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 5 年 4 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 1 分団第 4 部	半原 2 8 1 4 - 6	4 7 . 6 0 m ²	軽量鉄骨造	昭和 6 2 年 3 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		
第 1 分団第 5 部	半原 1 0 5	3 1 . 4 6 m ²	木造	昭和 6 0 年 4 月
第 1 分団第 6 部	田代 6 5 2 - 3	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 2 0 年 1 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 2 分団第 1 部	三増 5 8 1	6 7 . 3 1 m ²	鉄骨造	平成 1 0 年 3 月
		(1F 4 1 . 3 9 2F 2 5 . 9 2)		
第 2 分団第 2 部	角田 8 3 4 - 3	4 7 . 6 0 m ²	鉄骨造	昭和 5 9 年 1 2 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		
第 2 分団第 3 部	角田 3 1 3 - 2	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 1 8 年 2 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 2 分団第 4 部	角田 2 4 0 2 - 1	4 7 . 0 0 m ²	鉄骨造	昭和 6 3 年 3 月
		(1F 2 3 . 5 0 2F 2 3 . 5 0)		
第 3 分団第 1 部	中津 1 4 1 0 - 7	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 2 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 2 部	中津 5 1 1 - 1	7 4 . 8 8 m ²	鉄骨造	平成 3 1 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 3 部	中津 3 7 3 2 - 1 5	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 4 部	中津 3 9 0 1 - 7	7 4 . 8 8 m ²	重量鉄骨造	平成 1 4 年 3 月
		(1F 3 7 . 4 4 2F 3 7 . 4 4)		
第 3 分団第 5 部	中津 2 2 7 3 - 4	4 7 . 6 0 m ²	鉄骨造	昭和 6 1 年 1 1 月
		(1F 2 4 . 4 0 2F 2 3 . 2 0)		

応急手当 P R 動画 救命リレー第一走者はあなた！



愛川町では、「応急手当 P R 動画」を作成して応急手当普及推進活動を実施しています。

令和２年度 全国統一防火標語

その火事を 防ぐあなたに 金メダル

○過去の全国統一防火標語

昭和４３年度	あなたは火事の恐ろしさを知らない	平成６年度	安心の 暮らしの中心 火の用心
昭和４４年度	今捨てたタバコの温度が ７００ 度	平成７年度	災害に 備えて日頃の 火の用心
昭和４５年度	あぶない！消し忘れ、切り忘れ	平成８年度	便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ
昭和４６年度	いま燃えようとしている火がある	平成９年度	つけた火は ちゃんと消すまで あなたの火
昭和４７年度	慣れた火に 新たな注意	平成１０年度	気をつけて はじめはすべて 小さな火
昭和４８年度	隣にも声かけあってよい防火	平成１１年度	あぶないよ ひとりぼっちにした その火
昭和４９年度	生活の一部にしよう火の点検	平成１２年度	火をつけた あなたの責任 最後まで
昭和５０年度	幸せを明日につなぐ火の始末	平成１３年度	たしかめて。火を消してから 次のこと
昭和５１年度	火災は人災 防ぐはあなた	平成１４年度	消す心 置いてください 火のそばに
昭和５２年度	使う火を消すまで離すな目と心	平成１５年度	その油断 火から炎へ 災いへ
昭和５３年度	それぞれの持場で生かせ火の用心	平成１６年度	火は消した？ いつも心に きいてみて
昭和５４年度	これくらいと思う油断を火が狙う	平成１７年度	あなたです 火のあるくらしの 見はり役
昭和５５年度	あなたです！ 火事を出すのも防ぐのも	平成１８年度	消さないで あなたの心の 注意の火
昭和５６年度	毎日が防火デーです ぼくの家	平成１９年度	火は見てる あなたが離れる その時を
昭和５７年度	火の用心 心で用心 目で用心	平成２０年度	火のしまつ 君がしなくて 誰がする
昭和５８年度	点検は防火のはじまりしめくくり	平成２１年度	消えるまで ゆっくり火の元 にらめっ子
昭和５９年度	“あとで” より “いま” が大切 火の始末	平成２２年度	「消したかな」 あなたを守る 合言葉
昭和６０年度	怖いのは「消したつもり」と「消えたはず」	平成２３年度	消したはず 決めつけしないで もう一度
昭和６１年度	防火の大役 あなたが主役	平成２４年度	消すまでは 出ない行かない 離れない
昭和６２年度	消えたかな！ 気になるあの火 もう一度	平成２５年度	消すまでは 心の警報 ONのまま
昭和６３年度	その火 その時 すぐ始末！	平成２６年度	もういいかい 火を消すまでは まあだだよ
平成元年度	おとなりに あげる安心 火の始末	平成２７年度	無防備な 心に火災が かくれんぼ
平成２年度	まず消そう 火への鈍感 無関心	平成２８年度	消しましょう その火その時 その場所で
平成３年度	毎日が 火の元警報 発令中	平成２９年度	火の用心 ことばを形に 習慣に
平成４年度	点検を 重ねて築く “火災ゼロ”	平成３０年度	忘れてない？サイフにスマホに 火の確認
平成５年度	防火の輪 つなげて広げて なくす火事	令和元年度	ひとつずつ いいね！で確認 火の用心

令和元年(平成３１年)版 消 防 年 報

令和２年６月 発行

編 集 ・ 発 行 愛 川 町 消 防 本 部

〒243 - 0301 愛川町角田 2 8 6 番地 1

電話 0 4 6 - 2 8 5 - 3 1 3 1

FAX 0 4 6 - 2 8 5 - 4 0 9 1

E-mail syoubou@town.aikawa.kanagawa.jp

HP <http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/bousai/index.html>

